2009年度

講　義　計　画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名　クラス　講義区分	
CBCC 特講－ HSK トレーニング　＜８月集中＞	
陳　　梅　隠	２単位

【講義概要】
秋のHSK（漢語水平考試）受験に向けてリスニングのトレーニングおよび文献講義と練習を中心として行う。

【学習目標】
講義と大量な練習を通じて中国語文献読解能力のレベルアップを目指す。

【講義計画】
第１回　リスニング（講義）
第２回　リスニング（練習）
第３回　リスニング（説明）
第４回　文法（講義）
第５回　文法（練習）
第６回　文法（説明）
第７回　読解（講義）
第８回　読解（練習）
第９回　読解（説明）
第10回　総合（講義）
第11回　総合（練習）
第12回　総合（説明）

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　20%　出席　10%

【教科書】
授業の際指示する

【備考】
＜06～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
CBCC 特講－応用中国語Ａ　＜秋＞	
神　道　美映子	２単位

【講義概要】
初級程度の中国語を習得した学生を対象とする。最新の時事情報を扱ったテキストを読みながら、現代中国に関する知識を深めるとともに、読解力とコミュニケーション能力の向上を目指す。

【学習目標】
自分の考えを中国語で表現できる能力の習得を目標とする。

【講義計画】
第１回　奥运，使中国走向成熟
第２回　“百度一下，你就知道”
第３回　馒头、粽子都要国家标准吗？
第４回　第１回～第３回のまとめ
第５回　中国青少年看日本
第６回　“凤凰男”与“孔雀女”
第７回　震后的羌族
第８回　第５回～第７回のまとめ
第９回　新台湾领导人和新的两岸关系
第10回　大城市花絮
第11回　向左走、向右走－中国动漫界的明星
第12回　“豆腐帐”进博物馆
第13回　第９回～第12回のまとめ
第14回　総復習（１）
第15回　総復習（２）

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%
最新の時事用語をキーワードとして、レポートの作成を課す。

【教科書】
三潴正道・陳祖蓓 セレクト10　時事中国語2009 朝日出版社

【参考文献】
適時指示する。

【備考】
＜06～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
CBCC 特講－応用中国語Ｂ　＜秋＞	
徐　　羽　厚	２単位

【講義概要】
中国近現代史の内容を中心にしたと同時に、中国語中級レベルの学習を進める授業です。

【学習目標】
日中関係は経済を中心にますます密接になり、人的な交流も増えてます。この中で、丁度中国３ヶ月留学終わってから帰って来た中国ビジネス専門の三年生に、更なる中級以上の中国語特講授業を開設するのは、学生たちの中国語能力向上させだけではなく、今まで学んだ中国語と留学の経験を生かして、中国の経済現状及び歴史、社会なとを深く理解し、より流暢な会話能力ができた上、中国ビジネス専門を巡って、色々な話題ができるようと目標をしています。

【講義計画】
第１回　中華民国の成立
第２回　抗日戦争
第３回　新中国の成立
第４回　大躍進運動期
第５回　文化大革命
第６回　文革期の終焉
第７回　改革開放のスタート
第８回　天安門事件と南巡講話
第９回　朱熔基と三大改革
第10回　WTO加盟と胡温体制
第11回　現代中国ウォッチング（その１）
第12回　現代中国ウォッチング（その２）
第13回　現代中国ウォッチング（その３）
第14回　授業のまとめ

【成績評価の方法】
事前予習の有無、関係資料の調べ、授業中の様子などを平常点の元にし、期末テストの代わりに、レポートの提出を求める

【教科書】
三潴正道　　松田徹 現代中国の軌跡 金星堂

【参考文献】
辞書、中国近現代史についての参考資料、中国語新聞など

【備考】
事前の確認作業という予習が必要です。（単語、文章の背景、歴史事件と人物の詳細など）
常に中国語の新聞、雑誌を読む習慣を身に付けることが大事です
＜06～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
Japanese　Studies － Art　and Society　＜秋集＞	
片　平　　幸	４単位

【講義概要】
This course will look at what is called “classical” and “traditional” culture in Japan.
I will introduce basic knowledge, such as historical background, as well as recent studies and arguments, such as ideology behind about “classical” and “traditional” Japanese culture.
Various performances, paintings, gardens and other arts will be discussed, and a field trip to the related places will be planned during the course. Written texts are also used to understand key concepts/theories.
As part of the course assessment, students are required to do group presentation on given themes related to the course and take final exam.

【学習目標】
Students are expected to learn not only general knowledge, but also analytical view to Japanese culture.

【講義計画】
第１回　Introduction to the course
第２回　Folk performances and Religion in Japan
第３回　Folk performances and Religion in Japan
第４回　Medieval culture-Noh performance
第５回　Medieval culture-Noh performance
第６回　Medieval culture-Noh performance
第７回　Medieval culture-Art and aesthetics
第８回　Medieval culture-Art and aesthetics
第９回　Field Trip
第10回　Medieval culture-Through Yoshida Kenko’s Literature
第11回　Medieval culture-Through Yoshida Kenko’s Literature
第12回　Medieval culture-Through Yoshida Kenko’s Literature
第13回　group presentation and disussion week
第14回　group presentation and disussion week
第15回　group presentation and disussion week
第16回　Edo Culture-History
第17回　Edo Culture-Performing art～Kabuki
第18回　Edo Culture-Performing art～Kabuki
第19回　Edo Culture-Performing art～Bunraku, puppet theatre
第20回　Edo Culture-Performing art～Bunraku, puppet theatre
第21回　Edo Culture-Art and aesthetics
第22回　Edo Culture-Sense of humour～Paintings
第23回　Edo Culture-Sense of humour～Rakugo
第24回　Aesthetics and Ideology in Meiji Japan
第25回　Aesthetics and Ideology in Meiji Japan
第26回　Aesthetics and Ideology in Meiji Japan
第27回　Review
第28回　Final exam

【成績評価の方法】
Attendance and Class Participation (assignment, discussion) 30%, Presentation 30%, final Examination40%

【参考文献】
Yoshida Kenko, The Essays in Idolness, Tsurezuregusa of Kenko, translated by Donald Keen, Columbia University Press, 1998,

Okakura Tenshi, The Book of Tea, Kodansha, 2007

【備考】
英語による講義です。
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
Japanese Studies －『源氏物語』を英語で読む　＜秋集＞	
梅　山　秀　幸	4単位

【講義概要】
『源氏物語』は世界文学の中の最高の傑作の一つだといわれる。しかし、日本人でもそれを読み通した人は少ないだろう。古語ではなく、英語で読んでみたら、どうだろうか。この授業では原文を対照させながら、主に英訳で『源氏物語』を読むことを試み、場合によっては仏訳を利用しながら、日本語の特性についても考えて見たい。さらには『源氏物語』に取材した能を鑑賞して、この物語が後世に与えた影響についても考えたい。

【学習目標】
『源氏物語』やそれに取材した能に触れながら、日本文化についていわれる、ありふれたキーワードの「もののあはれ」、「みやび」、そして「幽玄」などについて考えてみたい。

【講義計画】
第１回　はじめに－授業の進め方など－
第２回　『源氏物語絵巻』（１）
第３回　『源氏物語絵巻』（２）
第４回　本居宣長の「もののあはれ」論
第５回　The Paulpwnia Court（桐壺）①
第６回　The Paulownia Court（桐壺）②
第７回　The Paulpwnia Court（桐壺）③
第８回　Evening Faces（夕顔）①
第９回　Evening Faces（夕顔）②
第10回　Evening Faces（夕顔）③
第11回　能「夕顔」
第12回　Lavender（若紫）①
第13回　Lavender（若紫）②
第14回　Lavender（若紫）③
第15回　Lavender（若紫）④
第16回　The Safflower（葵上）①
第17回　The Safflower（葵上）②
第18回　The Safflower（葵上）③
第19回　The Safflower（葵上）④
第20回　能「葵上」
第21回　能「葵上」
第22回　The Sacred Tree（賢木）①
第23回　The Sacred Tree（賢木）②
第24回　The Sacred Tree（賢木）③
第25回　能「野宮」
第26回　A Boat upon the Waters（浮舟）①
第27回　A Boat upon the Waters（浮舟）②
第28回　A Boat upon the Waters（浮舟）③
第29回　能「浮舟」
第30回　能「源氏供養」

【成績評価の方法】
レポートを数回出してもらう（日本人受講者は一度は英語で）

【教科書】
コピーを用意します。

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
Japanese Studies － Language and Society　＜春集＞	
友　沢　昭　江	4単位

【講義概要】
The class deals with the characteristics of Japanese language ranging from its linguistic features (grammar, writing system, sound structure, loan words) to sociolinguistic aspects (honorific speech, dialects, standard Japanese, gender). The lecture is given in English but it is required for the students to know some knowledge of Japanese language.

【学習目標】
The class aims to provide with the basic and broad knowlege on Japanese language and to foster a comparative perspective with the other major languages.

【講義計画】
第１回　Introduction to the course discription
第２回　Grammar(１)
第３回　Grammar(２)
第４回　Grammar (３)
第５回　Sound Structure(１)
第６回　Sound Structure(２)
第７回　Writing System(１)
第８回　Writing System(２)
第９回　Writing System(３)
第10回　Lexicon(１)
第11回　Lexicon(２)
第12回　Lexicon(３)
第13回　Honorific speech(１)
第14回　Honorific speech(２)
第15回　Gender(１)
第16回　Gender(２)
第17回　Standard Japanese and dialects(１)
第18回　Standard Japanese and dialects(２)
第19回　"New" dialects
第20回　Language of the youth
第21回　Japanese language education (JSL) (１)
第22回　Japanese language education (JSL) (２)
第23回　Haiku and Waka (Poetry) (１)
第24回　Haiku and Waka (Poetry) (２)
第25回　Presentation by the students(１)
第26回　Presentation by the students(２)
第27回　Presentation by the students(３)
第28回　Presentation by the students(４)
第29回　Review and discussion(１)
第30回　Review and discussion(２)

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
Attendance and class participation is highly appreciated (50%). Students are required to select a topic on Japanese language and give a presentation either individually or in a group for about 10 minutes (50%).

【教科書】
Handouts will be provided in each lecture.

【参考文献】
Masayoshi Shibatani The Languages of Japan (Cambridge University Press 1990)
Leo J. Loveday Language Contact in Japan (Clarendon Press 1996)
Mary G. Noguchi and Sandra Fotos (eds) Studies in Japanese Bilingualism (Multilingual Matters 2001)

【備考】
英語による授業ですが、日本語を題材とするので、英語にあまり自信がない学生も少し努力すれば参加できると思います。
英語による講義です。
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
Japanese Literature －文学にみる日本と西洋の出会い　＜秋集＞	
日　下　隆　平	４単位

【講義概要】
この授業は、西洋と日本との接点を芸術作品、なかでも文学を通じて検討してゆくことを目的としています。明治期以降、漱石、鴎外などを初めとしてヨーロッパに派遣された数多くの日本人がその地で本来の留学生として研鑽を積みながら様々な文化的刺激を受けて帰国してきました。その一方でフェノロサ、小泉八雲などはお雇い外国人教師として来日して東洋の魅力に取り憑かれた人々も決して少なくありません。現代に至ってはもはや西と東という構図は薄れ、村上春樹のように世界中で読まれる作家も登場しています。この講義ではこうした関係を軸に、双方が何を見つけようとしたかを検討してゆきます。

【学習目標】
授業ではパワーポイントを用いて、必要な場合にはビデオなどの映像も使用しながら授業を進めてゆきます。前半部分を説明にあて、後半部では　英文資料を講読しながら解説していきます。授業は以上のような方針ですが、内容については今日までの東西の接点を様々な資料から検討していきます。取り上げるトピックは以下の通りです。

【講義計画】
第１回　導入
第２回　1862年ロンドン万国博覧会ーイギリス・ジャポニスムの起源（１）
第３回　1862年ロンドン万国博覧会ーイギリス・ジャポニスムの起源（２）
第４回　ジェイムス・マクニール・ホイスラー（1834-1903）
第５回　ジャポニスムの起源
第６回　ジャポニスムの起源
第７回　ビデオ『ジャポニスム』
第８回　曽文とStudio
第９回　19世紀末イギリス社会の日本人
第10回　ロンドンの霧を描いた画家ー牧野義雄
第11回　最初に英語による詩を出版したヨネ・野口
第12回　イサム・ノグチの彫刻
第13回　日本人の見たイギリスー漱石のヴィクトリア朝ロンドンの終焉
第14回　ラファエル前派と漱石
第15回　長谷川如是閑『倫敦、倫敦』
第16回　復習テスト
第17回　アーネスト・フェノロサと日本（１）
第18回　アーネスト・フェノロサと日本（２）
第19回　エズラ・パウンドと日本ー能楽を通じて（１）
第20回　エズラ・パウンドと日本ー能楽を通じて（２）
第21回　W.B.イェイツと能楽ー『錦木』（１）
第22回　W.B.イェイツと能楽ー『錦木』（２）
第23回　伊藤道郎ーリズミック・ダンスと能
第24回　「オリエント」とは？
第25回　ラフカディオ・ハーンにみる日本
第26回　ラフカディオ・ハーンにみる日本
第27回　まとめ
第28回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　20%

【教科書】
プリント資料を毎回配布

【参考文献】
授業中に指示します。

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
アジア経済論　＜春集＞	
唐　　成	４単位

【講義概要】
本講義はアジアに関する次の５つの分析視点から構成されています。すなわち、第１に、東アジアの著しい経済発展のプロセス、第２に、ベトナムをはじめいくつかの国が計画経済から市場経済への移行経済、第３に、日本と東アジアの経済関係、第４に、アジア経済の課題（経済危機、環境問題、貧富格差など）、第５に、地域統合へ向けての動き、という内容を中心として、アジア諸国の経済発展の経緯及び新たな動向を解説し、これからのアジア経済の行方を考察する。

【学習目標】
本講義は①アジア経済を多角的に分析すること、②アジアの経済パフォーマンスの特徴を分析すること、③世界の中のアジア諸国の実態（現状と課題）を理解すること、を学習目標としている。

【講義計画】
第１回　第１回　イントロダクション
第２回　第２回　東アジアとは
第３回　アジアの工業化Ⅰ
第４回　アジアの工業化Ⅱ
第５回　NIEsの経済発展
第６回　韓国
第７回　ビデオ
第８回　台湾
第９回　ビデオ
第10回　香港
第11回　シンガポール
第12回　ASEANの経済発展
第13回　タイ
第14回　インドネシア
第15回　中間テスト
第16回　ビデオ
第17回　ベトナム
第18回　インド
第19回　ビデオ
第20回　中国
第21回　ビデオ
第22回　BRICs
第23回　グループワーク報告
第24回　グループワーク報告
第25回　アジアの所得格差
第26回　アジアの環境問題
第27回　東アジアの地域統合
第28回　日本とアジアの経済関係

【成績評価の方法】
出席状況（正式な欠席届は受理する）（40%）、講義内数回の課題提出などの平常点（20%）と持ち込み不可の中間テストと期末テストで（40%）により評価する。登録したものの未履習の場合は「０点」となるので注意のこと。

【参考文献】
北原淳・ 西沢信善『アジア経済論』ミネルヴァ書房、2004年。
原洋之介『現代アジア経済論』岩波テキストブックス、2002年。
渡辺利夫編『アジア経済読本』「第３版」東洋経済新報社、2003年。

【備考】
毎回講義用プリントを配布する。テキストは特に指定しない。ただし、参考文献の中から１冊ほど読んでおくこと。なお、本講義では、学生諸君のグループワークによるプレゼンテーションを取り入れている。

科目名　クラス　講義区分	
アジアの英語　＜春集＞	
大　原　始　子	４単位

【講義概要】
アジア各国では、アジア域内、他の地域とのコミュニケーションのために英語を使おうと教育が進められている。アジアといっても、国家の民族構成や政策は大きく異なり、国家により英語の位置づけは、第一言語、第二言語、外国語、と異なっている。
日本も含め、アジア各国の社会事情、言語計画、教育政策などとともに、その国で使われる英語の音声、文法、語彙の特徴を学んでいく。

【学習目標】
英語の非母語話者間による英語のコミュニケーションを円滑に行うために、アジアの国々の言語・社会事情の基礎的知識を得ることと、音声への慣れを目指す。
アジア各国で話されている英語の音声に慣れるために、各国出身の人によって話される英語を実際に聞いていく。

【講義計画】
第１回　＜オリエンテーション＞
　　なぜアジアで英語なのか。　アジアの英語とは。
　　(注) 授業の進度により、計画の内容が変更になることがある。
第２回　世界の英語 (World Englishes) の概念　母語圏と非母語圏
第３回　英語の公用語化と言語計画～アジア・アフリカ
第４回　日本で英語を「第二公用語」にする議論
第５回　母語の影響～誤用か中間言語かアイデンティティか
第６回　「多言語社会と英語～イギリスの統治を受けた社会」
第７回　　シンガポール：言語事情と言語計画
第８回　　シンガポール：教育政策とシンガポール英語の言語的特徴
第９回　　マレーシア：言語事情と言語計画
第10回　　マレーシア：教育政策とマレーシア英語の言語的特徴
第11回　　インド：言語事情と言語計画
第12回　　インド：教育政策とインド英語の言語的特徴
第13回　　香港：言語事情と言語計画
第14回　　香港：教育政策と香港英語の言語的特徴
第15回　　オーストラリア：言語事情と言語文化政策
第16回　　オーストラリア：オーストラリア英語～イギリス英語・アメリカ英語との相違点
第17回　多文化・多言語社会オーストラリアのアジア人
第18回　コミュニケーション能力を構成する３つの能力
第19回　「多言語社会と英語～アメリカの影響を受けた社会」
第20回　　フィリピン：言語事情と言語計画　フィリピン英語の言語的特徴
第21回　英語の社会的機能
第22回　「民族語の多言語社会と英語～英語の役割」
第23回　　中国：言語事情と英語教育　中国英語の言語的特徴
第24回　　台湾：言語事情と英語教育　台湾英語の言語的特徴
第25回　「単一言語社会と英語～第二言語習得」
第26回　　韓国：言語事情　英語教育の過熱
第27回　　日本：英語教育と日本語英語の言語的特徴
第28回　　日本：早期英語教育は必要か

【成績評価の方法】
試験　90%　レポート　10%
レポートと期末の論述試験の結果で評価する。
レポートの評価割合は10%であるが、必ず提出しなければならない。

【教科書】
未定

【参考文献】
『小学生に英語を教えるとは？－アジアと日本の教育現場から－』
めこん社　　河原俊昭編

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
アジア文化研究－インドネシアの開発と人口　＜秋集＞	
深　見　純　生	４単位

【講義概要】
東南アジアは、モンスーンアジアという世界人口分布の中心にあるにもかかわらず、小人口世界である。そのなかでジャワ島は巨大人口を持つという複雑な構造がある。その生態学的な背景と人口増加のプロセスを考えてみよう。最後に現在のインドネシアの人口問題の核心であるジャワ島農村の貧困問題の動向を検討してみよう。
なお、視覚的理解のために適宜ビデオを用いる。なおまた、受講生はインドネシアに関する初歩的な知識（あるいは強い関心）のあることが望ましい。

【学習目標】
人口という観点から東南アジア、とくにインドネシアという地域の理解をめざす。
インドネシアの社会と文化を理解するための重要な鍵は、開発の歴史と人口に関わる諸問題である。人口がインドネシア理解の鍵になる理由は、インドネシアが世界第４位の２億２千万という大きな人口を持つこと、それが不均等に分布し、とくにジャワ島の農村に滞留したことにある。

【講義計画】
第１回　第１章　アジアのなかの東南アジア
　　１－１. アジアのなかの東南アジア
第２回　１－２. アジアの大区分（地理区分・自然環境区分）
第３回　１－３. アジアの文化圏（東アジア・南アジア・西アジア）
第４回　１－４. 世界人口からみたアジアの位置
第５回　１－５. 世界のなかのモンスーンアジア
第６回　１－６. モンスーンアジアのなかの東南アジア
第７回　第２章 東南アジアの地域特性
　　２－１. 多様なる東南アジア
第８回　２－２. 東南アジアを把握する方法
第９回　２－３. 東南アジアの地域特性11箇条
第10回　２－４. 生態（自然環境と人間の交わり）からみた東南アジア
第11回　２－５. 歴史からみた東南アジア
第12回　第３章 小人口世界東南アジア
　　３－１. 世界人口の中の東南アジア
第13回　３－２. 小人口世界としての東南アジア
第14回　３－３. 東アジア・南アジアとの比較から
第15回　３－４a. 小人口世界の諸相（１）
第16回　３－４b. 小人口世界の諸相（２）
第17回　３－４c. 小人口世界の諸相（３）
第18回　３－５. 小人口世界のなかの過密
第19回　３－６. 人口からみたジャワの中心性
第20回　第４章 生態学的背景
　　４－１. 島の熱帯
第21回　４－２. 熱帯雨林の特徴と人間にとっての意味
第22回　４－３. 熱帯雨林多島海という生態系
第23回　４－４. 熱帯季節林平原という生態系
第24回　４－５. 熱帯季節林火山島という生態系
第25回　第５章 2000年センサスからみたインドネシア
　　５－１. 2000年国勢調査からみたインドネシア
第26回　５－２. インドネシアにおける人口分布の特徴
第27回　５－３. インドネシアにおける「民族」の問題
第28回　５－４. インドネシアにおける「民族」の問題
第29回　５－５. 2006年中部ジャワ自身の被害が大きかったわけ
第30回　５－６. 都市化の諸相

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　25%
期末テストおよび時々の小レポートを総合して評価する。

【教科書】
特定の教科書は用いない。いわゆるノート講義であり、適宜資料を配付する。

【参考文献】
池端雪浦編『東南アジア史２島嶼部』山川出版社 1999
京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア　風土・生態・環境』弘文堂 1997
坪内良博『小人口世界の人口誌』京都大学学術出版会 1998
その他、授業の中で示す。

科目名　クラス　講義区分	
アジア文化研究－韓国・朝鮮文化　＜秋集＞	
青　野　正　明	４単位

【講義概要】
近年、日本と韓国との交流が様ざまな分野で盛んになってきた。そのため、現代韓国に関心をもつ人たちが増えている。
そのような状況を踏まえて、この授業では現代韓国の理解に重点を置きながら、韓国・朝鮮文化一般を概説していく。具体的には、歴史・地理・宗教・言語・社会制度などの諸項目について、パワーポイントを用いて学ぶ。視覚資料の多い教科書を用いるし、パソコンでも視聴覚資料を多く使う予定。

【学習目標】
まずは知らないことが多い隣国の文化を知ることが大切。そして、異文化の特質を見つけて理解するための視点や分析方法を学ぶ。それらを通じて、韓国・朝鮮文化の面白さを自分なりに見出す。

【講義計画】
第１回　韓国・朝鮮文化入門、講義の流れや成績評価等の説明
第２回　歴史１（檀君とは？、百済と大和朝廷）
第３回　歴史２（秀吉の侵略、家康以降の友好関係）
第４回　歴史３（植民地支配、分断後の政権）
第５回　地理１（ソウル：王朝時代の面影）
第６回　地理２（ソウル：植民地の残影）
第７回　地理３（映画JSAと南北分断）
第８回　宗教１（巫俗）
第９回　宗教２（仏教・儒教）
第10回　宗教３（キリスト教・新宗教）
第11回　言語１（言語のルーツと漢字文化圏）
第12回　言語２（ハングルの構造と特徴、外来語）
第13回　社会制度１（姓と本貫）
第14回　社会制度２（差別問題、伝統的な結婚）
第15回　風俗１（正月、村祭り、秋夕）
第16回　風俗２（葬法、陰暦行事の意義）
第17回　集落と住居１（伝統的な住居）
第18回　集落と住居２（風水と儒教の要素）
第19回　衣服（韓服と和服の起源）
第20回　料理と酒１（焼肉：日韓の比較）
第21回　料理と酒２（キムチの特徴）
第22回　美術１（黄金、白衣と白磁）
第23回　美術２（丹青、紋様、石、青磁）
第24回　舞踊・演劇（農楽、仮面劇、パンソリ）
第25回　音楽（「アリラン」の歌いろいろ）
第26回　北朝鮮事情（支配体制、映画「パッチギ！」）
第27回　在日コリアン１（在日とは？日本人とは？）
第28回　在日コリアン２（帰化行政、アイデンティティ問題）

【成績評価の方法】
試験　100％
期末試験は出席・受講状況が反映するような問題を予定している。欠席が多かったり、出席しても勉強しなければ、そのまま試験の点数に反映するということである。また、授業中に私語をする等で受講態度の悪い者も減点する。

【教科書】
金両基監修 読んで旅する世界の歴史と文化・韓国 新潮社

【参考文献】
必要に応じて授業中に紹介する。また、プリント類も配布し、ビデオ・写真等も見る予定。

科目名　クラス　講義区分	
アジア文化研究－チベット文化圏の歴史・風俗・生活文化＜通期＞	
森　田　登代子	４単位

【講義概要】
1959年消滅、公的には国家としての機能は有しないが、文化的・社会的にも現代社会に影響を与えている国、それがチベット。
チベット文化圏とはシルクロードの間道に位置し、ヒマラヤ山脈を取り巻く地域のチベット密教を基軸にした伝統文化を指す。講義では、そのような地域－チベット文化圏に関する歴史と文化を概略する。日本にも多大な影響を与えた独自の宗教観、ないし西洋史観とは異次元のアジア観にも言及し、文化果つる地域に生きる人々の生活文化を考察する。具体的にはチベット文化圏の映像・諸文献を提示し、生活文化に根ざした倫理観に着目し、近代化における諸問題、例えば環境問題などにおける現状と展望についても説明。グローバル化された現代社会での閉塞感を払拭すべく新しいアジア研究の一助としたい。

【学習目標】
テキスト、映像資料を中心に授業を行う。チベット文化圏に関する生活文化資料は日本にはそれほど多くないが、できるだけ原資料を提示し、分かり易く説明する。実際の文物も接触し、さまざまなアプローチのなかからチベット文化圏を理解する。

【講義計画】
第１回　①チベット文化圏とは？過酷な気候風土とそこに生きる人々の生活
②チベットを目指した日本人
第２回　チベット文化圏の風土―ウ、ツァン、カム、アムド地方
第３回　チベット文化圏の風土と文化
第４回　チベットの民族・言語
第５回　チベットの歴史①－吐蕃王国から
第６回　チベットの歴史②
第７回　チベットの歴史③
第８回　チベットの宗教①
第９回　チベットの宗教②
第10回　チベットの宗教と生活
第11回　聖地巡礼
第12回　チベット文化圏のくらし①―生と死
第13回　チベット文化圏のくらし②
第14回　チベット文化圏の祭①－暦
第15回　チベット文化圏の祭②
第16回　チベット文化圏の習俗①－（生と死）
第17回　チベット文化圏の習俗②－ケサル王叙事詩
第18回　チベット文化圏の服飾①－概要
第19回　チベット文化圏の服飾②－文化の固有と周縁
第20回　チベットオリエンタリズム
第21回　周縁①－ヒマチャルプラデッシュの文化
第22回　周縁②－シルクロードと交易
第23回　宗教と文化－タボ寺を中心に
第24回　西洋からみた「チベット」―映画から
第25回　ラダック－貧困とグローバリズム
第26回　チベットと環境問題①
第27回　チベットと環境問題②
第28回　まとめ①
第29回　まとめ②
第30回　まとめ③

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　80％　出席　20％
レポートは前期、後期に分けて提出

【教科書】
石濱裕美子 チベットを知るための50章 明石書店

正木晃 裸形のチベット サンガ

【参考文献】
安旭主編『蔵族服飾芸術』南開大学出版
山口瑞鳳『チベット』東京大学出版会
Ｄ・スネグローブ/Ｈ・リチャードソン『チベットの文化史』春秋社
ジュゼッペ・トゥッチ『チベット仏教探険誌』平河出版社
ヘレナ・ノーバー・ホッジ『ラダック懐かしい未来』山と溪谷社

ビーバー夫妻『ヒマラヤの小チベットラダック』未来社
成田山仏教研究所『スピティの秘仏』大本山成田山新勝寺
加藤敬『聖なる響き　西チベットの少数民族の祈り』平河出版社
Svetoslav, Roerish, Art in the Kulu Valley
Moti Chandra, Costumes Textiles Cosmetics and Coiffure in the Ancient and Mediaeval India, New Delhi
M C.Goldstein and C M.Beall, Nomads of Western Tibet
Shantial Nagar, The Temples of HIMACAL PRADESH
Laxman S.Thukur, Buddhist in the Western Himalaya
O.C. Handa, Textiles, Costumes and Ornaments of the Western Himalaya
M.R. Thakur, Myths, Ritual and Beliefs in Himachal Pradesh
Dilarm Shabab, KULLU Himalayan Abode of Divine
Deborah E, Klimberg-Salter, Tabo ?A Lamp for the Kingdom

科目名　クラス　講義区分	
アジア文化研究－東アジア文化史を考える　＜秋集＞	
Philip Billingsley	4単位

【講義概要】

First of all, please note that the lectures will all be in ENGLISH! However, the English will be very easy to understand, so, even if you don't feel confident, why not give it a try? The topic will be "Reflections on the Modern Cultural History of East Asia".
What is "Asia"? Where does it start and where does it end? And what is "East Asia" - east of where? In the opening lectures, I will discuss the meaning of terms like "Asia" and "East Asia", and introduce the cultural history of modern East Asia in easy-to-understand English. Much of the content might be familiar to many students, but perhaps it will be the first time to hear that content in English. I hope that familiarity with the contents will make the lectures easier for students to understand. Here are the details again in Japanese.

英語による講義とはいえ、極端にやさしい英語を使うので恐れずに受講してみてください、思っているほど難しくないから（本当に！）。
「アジア」とはそもそもなんだろう？どこから始まってどこで終わる？「東アジア」はどこの観点から「東」となる？（例えば、日本からは西の方向に位置する。）われわれはこのような地理表現を抵抗なく受け入れがちである。このコースでは、上に問いかけた「アジアとは何か？」について考えてから、中国を中心に発達してきた東・東南アジアの世界の国々の近現代文化史を簡単に紹介する。

なじみやすい内容なので受講生は不慣れの英語を媒体に聴くことへの抵抗を乗り越えられると期待している。聞き取りやすいようにありとあらゆる工夫をする。

【学習目標】

The purpose of this course is to give students a simple outline of modern East and Southeast Asian cultural history, in English that is easy for them to understand. このコースではできるだけ優しい英語で東アジアや東南アジアの国々の近現代文化史を簡単に紹介する。

【講義計画】

第１回　1. Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, etc.（コース内容の説明、授業の賢い受け方、宿題の説明、受講生の責任に関する話）
第２回　Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, etc.
第３回　Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, etc.
第４回　What is「Asia」？: a brief definition of terms and overview of the course　（アジアとは何か？授業によく出てくる用語の説明、コースの範囲の説明など）
第５回　What is「Asia」？: a brief definition of terms and overview of the course
第６回　What is「Asia」？: a brief definition of terms and overview of the course
第７回　Modern Cultural History of East Asia（1）: Southeast Asia 1（近現代アジアの文化史１：東南アジア）
第８回　Modern Cultural History of East Asia（1）: Southeast Asia 2
第９回　Modern Cultural History of East Asia（1）: Southeast Asia 3
第10回　Modern Cultural History of East Asia（2）: China 1（近現代アジアの文化史１：中国）
第11回　Modern Cultural History of East Asia（2）: China 2
第12回　Modern Cultural History of East Asia（2）: China 3
第13回　Modern Cultural History of East Asia（2）: China 4
第14回　Modern Cultural History of East Asia（3）: The "Other Chinas": Taiwan, Hong Kong, Macao 1（近現代アジアの文化史２：「もう一つの中国：台湾、香港、マカオ」）
第15回　Modern Cultural History of East Asia（3）: The "Other Chinas": Taiwan, Hong Kong, Macao 2

第16回 Modern Cultural History of East Asia (3): The "Other Chinas": Taiwan, Hong Kong, Macao 3
第17回 Modern Cultural History of East Asia (3): The "Other Chinas": Taiwan, Hong Kong, Macao 4
第18回 Modern Cultural History of East Asia(4): The "Unwilling Chinas": Tibet, Xinjiang 1 (近現代アジアの文化史３：「不本意の中国」：チベット、新疆)
第19回 Modern Cultural History of East Asia(4): The "Unwilling Chinas": Tibet, Xinjiang 2
第20回 Modern Cultural History of East Asia(4): The "Unwilling Chinas": Tibet, Xinjiang 3
第21回 Modern Cultural History of East Asia (5): The Non-Chinese World -- Mongolia, Central Asia 1 (近現代アジアの文化史４：「非中華」の世界：モンゴル、中央アジア諸国)
第22回 Modern Cultural History of East Asia (5): The Non-Chinese World -- Mongolia, Central Asia 2
第23回 Modern Cultural History of East Asia (6): Overseas Chinese Communities of Southeast Asia 1 (近現代アジアの文化史４：東南アジアに広がる華僑の世界)
第24回 Modern Cultural History of East Asia (6): Overseas Chinese Communities of Southeast Asia 2
第25回 The Modern Cultural History of East Asia (7): Japan & Korea 1 (近現代アジアの文化史４：朝鮮半島、日本)
第26回 The Modern Cultural History of East Asia (7): Japan & Korea 2
第27回 The Modern Cultural History of East Asia (7): Japan & Korea 3
第28回 Summary (総括)

【成績評価の方法】
As this class is also designed to improve students' English hearing ability, attendance at every class is expected. (Special consideration will be given to final-year students busy with job-hunting.) There will also be regular quizzes, homework in which students are expected to summarize the lectures and describe their impressions, and an essay test at the end of the course.
英語のヒアリング能力を磨くための授業だから毎回出席することがが大前提。(しかし、就職活動で忙しい４回生以上の受講生に配慮を払う。) そのほかにクイズ、宿題 (講義内容の要約など) もあり、エッセイ中心の期末テストもある。

【参考文献】
特になし

【備考】
英語による授業ですよーお間違いのないように。
英語による講義です。

科目名 クラス 講義区分	
アジア文化研究－「文明の十字路」トルコの歴史 ＜春集＞	
今 澤 浩 二	４単位

【講義概要】
小アジア半島を中心とするトルコは、「鉄の民族」ヒッタイトをはじめ、古代ギリシア文明、ヘレニズム文明、ローマ帝国、ビザンツ帝国（東ローマ帝国）、オスマン帝国などさまざまな民族・文明が興亡し、まさに「文明の十字路」と呼ぶにふさわしい地域である。この講義では、こうしたトルコの歴史を、特に20世紀初頭まで600年にわたって君臨し続けたオスマン帝国を中心に概観する。

【学習目標】
トルコは古来、世界史に重要な舞台を提供してきたにもかかわらず、日本ではあまり知られていない地域である。その歴史を考えることを通じて、世界史において果たしてきたトルコの重要な役割について理解を深めることを目標とする。

【講義計画】
第１回 小アジア半島（アナトリア）とは
第２回 ヒッタイト①
第３回 ヒッタイト②
第４回 トロイ
第５回 ギリシア文明
第６回 ペルシア帝国
第７回 ヘレニズム時代
第８回 ローマ帝国①
第９回 ローマ帝国②
第10回 ローマ帝国③
第11回 ビザンツ帝国①
第12回 ビザンツ帝国②
第13回 イスラームの成立と発展①
第14回 イスラームの成立と発展②
第15回 トルコ民族の進出①
第16回 トルコ民族の進出②
第17回 オスマン帝国の成立
第18回 初期の発展と挫折
第19回 コンスタンティノープルの征服
第20回 オスマン帝国の最盛期①
第21回 オスマン帝国の最盛期②
第22回 オスマン帝国の社会
第23回 オスマン帝国の宮廷と「ハーレム」①
第24回 オスマン帝国の宮廷と「ハーレム」②
第25回 オスマン帝国の衰退①
第26回 オスマン帝国の衰退②
第27回 オスマン帝国の滅亡
第28回 トルコ共和国の成立

【成績評価の方法】
試験 70% 出席 30%
初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

【参考文献】
授業中、適宜指示する。

科目名　クラス　講義区分	
アジア文化史　＜秋集＞	
原　山　　煌	4単位

【講義概要】
モンゴル高原に興亡した騎馬遊牧民族の姿を、歴史と文化の両面から多角的に考察する。かれらは、農耕民の世界とは全く異質な生業と文化を持っている。遊牧の起源と展開、騎馬技術の獲得の意義、農耕民を圧倒できた理由などを説き、新しくは、20世紀にモンゴル人民共和国という、世界で2番目の社会主義国をたてた事情など、さまざまな側面に光を当てたい。

【学習目標】
中国世界からは蛮族とみなされた彼らは、東アジアの前近代史に、さらには世界史の展開に大きな影響を与えてきた。13世紀のモンゴル世界帝国の出現を見れば誰もそのことを否定できないだろう。さらには、遊牧という生業がこれからどうなっていくのか、そうしたテーマについて理解してほしい。質問や意見などを下記の小テストの余白に書くことができる。それらに対しては、次回冒頭に回答する。

【講義計画】
第1回　この授業のオリエンテーション
第2回　遊牧という生業について
第3回　騎馬技術の起源と展開
第4回　スキタイについて
第5回　匈奴の出現
第6回　騎馬技術が中国に
第7回　匈奴と秦漢帝国
第8回　匈奴の文化
第9回　高祖劉邦と武帝の匈奴への対応
第10回　中行説の言説
第11回　匈奴と漢の西域争奪
第12回　トルコ系騎馬遊牧民
第13回　突厥碑文の世界
第14回　ソグド商人との関係
第15回　中間テスト
第16回　モンゴルの出現
第17回　モンゴルの族祖伝承
第18回　チンギス・ハン登場
第19回　チンギス・ハンの戦略
第20回　ヤサとビリクとジャルリク
第21回　モンゴル世界帝国の出現
第22回　フビライ・ハンと元朝
第23回　重商国家モンゴル
第24回　最高潮に達した東西交渉
第25回　モンゴルの退場
第26回　新しい「モンゴル」の意味
第27回　東アジアのモンゴル継承国家：清朝
第28回　現在のモンゴル
第29回　囚われのモンゴル：「内蒙古自治区」
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　30%
毎回授業終了時に小テストを課す。それによって、出席状況と授業の理解度を確認する。小テストの解答の成績評価への比率は、20%とする。

【教科書】
特に指定しない。頻繁に配布資料を用意するので、なくさないように気をつけて、毎回携行すること。

【参考文献】
折に触れて紹介する。

科目名　クラス　講義区分	
アメリカ経済論　＜秋集＞	
中　本　　悟	4単位

【講義概要】
＜アメリカン・グローバリズムとアメリカ経済＞
現在のGlobalizationは、Global Americanizationという様相が強い。これには、アメリカがIMFや世界銀行、国連、WTOなどの国際機関の場において、またNAFTA（北米自由貿易協定）などの地域協定において、アメリカ流のグローバリズムを主導的に展開してきたからである。また、1990年代には世界の資金がアメリカに集中し、アメリカはかつてない超長期の景気拡大を達成し、アメリカの経済・経営モデルがスタンダード・モデルとされたからであった。しかし、サブプライム・ローン危機に端を発する世界的な金融危機のなかで、アメリカの経済・経営モデルは、その見直しを迫られている。
　本講義では、まず、アメリカの主張するグローバリズム（アメリカン・グローバリズム）を、その基本的な考え方、政策展開、その主要な推進者である多国籍企業・銀行の動向、IMF・WTO体制、地域主義、の各視点から検討する。次に、アメリカン・グローバリズムの下でのアメリカ経済をいくつかの領域に分けて検討する。
本講義では日米比較を重視するが、これによってアメリカ経済だけではなく、日本経済への理解も深くなるものと考えている。

【学習目標】
1　アメリカの経済構造、歴史、政策の視点から総合的に理解する。
2　アメリカ経済を政治や社会関係との関係を重視して理解する。
3　アメリカ経済を日本経済との比較の視点で把握する。
4　アメリカ経済を理解するに必要なデータや経済指標を理解する。

【講義計画】
第1回　＜アメリカン・グローバリズム＞
　　グローバリゼーションとグローバリズム
第2回　アメリカン・グローバリズム
第3回　アメリカ多国籍企業のグローバル展開(1)
第4回　アメリカ多国籍企業のグローバル展開(2)
第5回　多国籍企業の政治問題化と対外経済政策の転換
第6回　アメリカ多国籍企業の新動向
第7回　貿易・投資の世界的自由化とWTO体制
第8回　サービス貿易自由化とWTO体制
第9回　アメリカン・グローバリズムと国際金融体制
第10回　アメリカン・リージョナリズム（地域主義）の台頭
第11回　北米戦略とNAFTA（北米自由貿易協定）
第12回　「貿易と環境」とNAFTA論争
第13回　中南米戦略とFTAA（米主自由貿易地域）構想の失速
第14回　アジア太平洋戦略とAPEC（アジア太平洋協力会議）の変容
第15回　アメリカン・グローバリズムとアンチ・グローバリズム
第16回　＜アメリカン・グローバリズムの国内的文脈＞
　　グローバリズムの国内的文脈とは?
第17回　アメリカの産業構造の変化
第18回　サービス経済化
第19回　ヤング・レポートとパルミサーノ・レポート
第20回　アメリカン・コーポレート・ガバナンス（企業統治）の構造
第21回　アメリカン・コーポレート・ガバナンスの転機
第22回　アメリカの金融：制度と革新
第23回　セキュリタイゼーション（証券化）と銀行の収益性革命
第24回　サブプライム・ローン危機の展開
第25回　財政思想の変遷と財政政策(1)
第26回　財政思想の変遷と財政政策(2)
第27回　アメリカ型福祉国家の成立・展開と転換
第28回　アメリカの労働市場の構造
第29回　グローバル競争下の労働市場と労働政策
第30回　アメリカの知的財産権戦略

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　0%　出席　30%
時に応じて書いてもらうコメントを平常点としたうえで、年度末の筆記試験の成績とを総合して評価する。

【教科書】
萩原伸次郎・中本　悟編 現代アメリカ経済 日本評論社
授業に必要な講義レジュメや資料を配布します。

【参考文献】
授業中に紹介します。

科目名　クラス　講義区分	
アメリカ文化研究－アメリカ小説を楽しむ　＜通期＞	
伊　藤　貞　基	4単位

【講義概要】

粋なジヴァンシー・ファッションとヘンリー・マンシーニ作曲の主題歌「ムーン・リヴァー」で大ヒットを遂げた映画『ティアニーで朝食を』(1961) の原作 Breakfast at Tiffany's (1958) を読む。村上春樹が愛好するアメリカ小説のうちの一つで、最近、彼による新訳が出版されたばかりである (2008. 2　新潮社、文庫本化 2008. 12)。 作者の Truman Capote (1924-84) はアメリカ南部出身で、第二次世界大戦後に Norman Mailer (1923-2007) や J.D. Salinger (1919-　) らとともに文壇にデビューし、日本でも長編小説『遠い声、遠い部屋』(1948) やノンフィクション・ノベル『冷血』(1966) などの翻訳書を通して、その名をよく知られている。

Breakfast at Tiffany's は第二次世界大戦中のニューヨークを舞台にしたスマートな中編の都会小説で、豊かで自由な生活を求めて奔放に生きる自然児のような若い魅力的な女性 Holly Golightly を主人公とするが、彼女の生き方はアメリカン・ドリームの探究にも通じるだろうし、また、ヒッピー族出現以前の東西冷戦下のアメリカ社会の息苦しさへの反発、あるいは、アメリカ的な物質主義や清教徒精神への反発ともとれる。主人公の国外脱出は「自由からの逃走」ではなく「自由への逃走」のように見える。

【学習目標】

すぐれた文学作品には、名場面や名台詞、巧みな象徴の使い方などが満ちあふれている。それらを十分に味わい、楽しみながら「小説の読み方」を身に付け、同時に、アメリカやアメリカ文学についての知識を深めたい。この小説そのものと映画との間の食い違いを考察するのも面白いかも知れない。

この中編小説は約100頁の長さなので、最後まで読み通したい。授業は学生による訳読を中心に、教員による速読や要約、作品の構成や主題についての解説、出席者全員によるテキスト解釈についてのディスカッションなどを交えながら進める。期末に感想文の提出を求める予定。

【講義計画】

第１回　Orientation
第２回　語り手登場
第３回　Joe Bell からの電話
第４回　Holly Golightly　の消息
第５回　語り手、Holly の存在を知る
第６回　語り手、Holly と知り合う
第７回　Holly と Sally Tomato
第８回　Holly のアパートでのパーティー(１)(O.J. Berman)
第９回　Holly のアパートでのパーティー(２)(Rusty Trawler)
第10回　Holly のアパートでのパーティー(３)(Mag Wildwood)
第11回　Mag Wildwoodと Holly
第12回　短篇掲載祝い
第13回　Mag と José Ybarra-Jaegar/ Holly と Rusty
第14回　クリスマス・イヴのパーティー
第16回　仲違い
第17回　Doc Golightly の出現
第18回　Holly の過去
第19回　仲直り
第20回　Fred の戦死
第21回　Holly と José
第22回　とんでもない１日
第23回　麻薬スキャンダル
第24回　釈放と流産
第25回　ブラジルへの航空便
第26回　José からの手紙
第27回　空港へ
第28回　雨の中の猫
第29回　ブラジルからの便り

【成績評価の方法】

試験　50%　レポート　20%　出席　30%

【教科書】

Truman Capote　著　横尾定理編注『ティファニーで朝食を』(Breakfast at Tiffany's)　金星堂

【参考文献】

１）龍口直太郎訳『ティファニーで朝食を』新潮文庫　1968
２）村上春樹訳『ティファニーで朝食を』新潮文庫　2008.12

科目名　クラス　講義区分	
アメリカ文化研究－アメリカ文学史　＜秋集＞	
佐々木　英　哲	4単位

【講義概要】

This course, an exposition of the socio-historical circumstances and Zeitgeist surrounding the lives and literary works of American writers, will give a chronological view of American literature. In half of the lectures, to be conducted in English, I will introduce various American writers, their works, and their themes while tracing socio-historical backgrounds and intellectual trends of American society. In the other lectures I will have resort to Japanese to ensure that the students can easily grasp the contents and themes from the excerpts of the literary texts. We will cover literary works produced chronologically, along the following timeline: first, from colonialism to the Civil War; next, from the Civil War through the two World Wars; and lastly, through the latter half of the 20th century up to the present.

作家及びその文学作品を取り巻く社会的・文化的状況、時代精神までを射程範囲に収めたうえで、アメリカ文学を通史的に概観する。講義は英語、日本語の２セクションで構成される。作家、作品、作品主題については、全講義のおよそ半分を使って、アメリカ社会の動きと思想の流れに関連づけて英語で解説する。残りの授業では、実際に作品にあたってみる。英語で書かれた原典テキストの解読・解説作業を中心とした作業を日本語で展開していく。時代を追って作品を読んでいく。植民地時代から南北戦争までの文学、南北戦争後から第２次大戦までの文学、第２次大戦から今日に至るまでの文学を扱う予定でいる。

【学習目標】

This course is designed as an introductory course for students who have yet to form their own views of American literature in a historical context. For this reason, I will temporarily disregard the current criticisms and the doubt they have been shedding on the literary status of the "canonical." Instead, I will have the students read some of the masterpieces of the American writers recognized as canonical, and help the students review the themes of these works. Incidentally, I will not be presenting the lectures in a one-way, explanatory style. Rather, I hope to encourage the students to participate, in order to enrich their interactions with the instructor and with each other.

アメリカ文学を俯瞰するという作業は多くの受講生にとって初めてのはずである。その意味から授業は必然的に導入的意味合いが強くなる。受講生が導入レベルにある事実を踏まえ、近年、文学史に於いて主要作家による主要作品の正当性が根幹から問われているという事実は、この際、さほど重要視しないことにする。したがって、本講義では、アメリカ文学史を支える屋台骨と「見なされてきた」主要作家の手による代表的な作品を読み返しつつ、それらの文学的主題を再検証する作業を行う。なお、担当者として、単に一方的講義による作家・作品解説に終始する授業にはしない、と付言しておく。

【講義計画】

第１回　Introduction
第２回　Jonathan Edwards
第３回　James Fenimore Cooper (The Pioneers)
第４回　Ralph Waldo Emerson (１) ("Self-Reliance")
第５回　Ralph Waldo Emerson (２) ("Self-Reliance")
第６回　Henry David Thoreau ("Civil Disobedience")
第７回　Nathaniel Hawthorne (１) (The Scarlet Letter)
第８回　Nathaniel Hawthorne (２) (The Scarlet Letter)
第９回　Herman Melville (１) (Pierre)
第10回　Herman Melville (２) (Pierre)
第11回　Walt Whitman (Leaves of Grass)
第12回　Emily Dickinson
第13回　Harriett Beecher Stowe (Uncle Tom's Cabin)
第14回　Mark Twain (１) (The Adventures of Huckleberry Finn)
第15回　Mark Twain (２) (The Adventures of Huckleberry Finn)
第16回　Stephen Crane (Maggie: A Girl of the Streets)
第17回　Henry James (１) (The Wings of the Dove)

第18回　Henry James（2）(The Wings of the Dove)
第19回　Edith Wharton (The House of Mirth)
第20回　Scott Fitzgerald (The Great Gatsby)
第21回　Ernest Hemingway (The Old Man and the Sea)
第22回　William Faulkner（1）(Absalom, Absalom!)
第23回　William Faulkner（2）(Absalom, Absalom!)
第24回　Tennessee Williams (The Glass Menagerie)
第25回　Ralph Waldo Ellison (The Invisible Man)
第26回　Edward Albee (Who's Afraid of Virginia Woolf?)
第27回　Thomas Pynchon (The Crying of Lot 49)
第28回　Conclusion

【成績評価の方法】
試験　25%　レポート　45%　出席　30%
A Small test will be given every class held. The students will be asked to turn in a report the instructor at the end of the semester.

予習・復習にかかわる範囲で毎回始業時に小テストを行い、それをもって出席確認に代える。毎回、小テストをするので学期末にはテストは行わず、レポートを提出してもらうつもりでいる。

【教科書】
Handouts are given.
プリントを配布する。

【参考文献】
To be announced.　授業で指示。

【備考】
英語による講義です。

科目名　クラス　講義区分	
アメリカ文化研究－暴力と金と結社と差別　＜春集＞	
藤　森　かよ子	4単位

【講義概要】
★この講義では、アメリカ合衆国を理解するために、アメリカの社会文化現象を以下の４つの様相から考察します。考察材料として、ハリウッド映画を利用します。

(1)銃文化の歴史的政治的的背景---銃所持は自由市民の権利？
(2)清貧という美徳がない文化---まずは金持ちにならなきゃ駄目！
(3)個人主義のメッカなのに、やたら結社が多い。この矛盾はなぜ？
(4)多文化主義こそアメリカ。でも多民族多人種多社会は難しい・・

★はっきり言えば、映画だの文学作品だのは、現実逃避用文化産物でしかありません。しかし、私たちは、現実のありのままに現実を認識できません。現実逃避用文化産物のような媒介を通して、なんとか現実を把握できるのです。なにゆえか、脳がそういうことになっています。しかも、その現実逃避用文化産物は、一般ピープル向け洗脳道具になっています。鵜呑みにして信じることは危険です。しかし、映画などのメディアは実に巧妙で強力で魅力的です。その洗脳の巧みさから、私たちは学ぶべきことが多くあります。

★映画を含むメディアは、どんなものでも、どの国のものでも、信用できません。メディアは政治的でありイデオロギカルなものです。このクラスでは、アメリカ文化の様相とともに、映画を疑いながら分析すること（media literacy）も学びます。

【学習目標】
★私たちは、ほんとうはよく知りもしないのに、物事を論評したり、無責任に批判したりしがちです。アメリカ合衆国のことを、よく知りもしないのに反米のポーズをとっていればいいような風潮もあります。

★ある現象が起きていることの背景には、それを生む要因、事情、理由があります。なぜ、そうなのか？それを考えることこそ科学的態度、学問的態度、知的態度です。その姿勢を身につけるのも、本講義の目標のひとつです。

【講義計画】
第１回　(1)講義内容の紹介と進行と受講生の留意すべきことの確認(2)なぜ映画を使用するか、その意味の確認
第２回　暴力：合衆国憲法と武装権と銃文化(1)
第３回　暴力：合衆国憲法と武装権と銃文化(2)
第４回　暴力：合衆国憲法と武装権と銃文化(3)
第５回　暴力：合衆国憲法と武装権と銃文化(4)
第６回　暴力：合衆国憲法と武装権と銃文化(5)
第７回　暴力：合衆国憲法と武装権と銃文化(6)
第８回　暴力：合衆国憲法と武装権と銃文化(7)
第９回　金銭：資本主義は道徳だ！清貧という美徳はない文化(1)
第10回　金銭：資本主義は道徳だ！清貧という美徳はない文化(2)
第11回　金銭：資本主義は道徳だ！清貧という美徳はない文化(3)
第12回　金銭：資本主義は道徳だ！清貧という美徳はない文化(4)
第13回　金銭：資本主義は道徳だ！清貧という美徳はない文化(5)
第14回　金銭：資本主義は道徳だ！清貧という美徳はない文化(6)
第15回　結社：責任ある自由な個人だからこそ団結する(1)
第16回　結社：責任ある自由な個人だからこそ団結する(2)
第17回　結社：責任ある自由な個人だからこそ団結する(3)
第18回　結社：責任ある自由な個人だからこそ団結する(4)
第19回　結社：責任ある自由な個人だからこそ団結する(5)
第20回　結社：責任ある自由な個人だからこそ団結する(6)
第21回　差別：多民族多人種国家はくたびれるが、素晴らしい(1)
第22回　差別：多民族多人種国家はくたびれるが、素晴らしい(2)
第23回　差別：多民族多人種国家はくたびれるが、素晴らしい(3)
第24回　差別：多民族多人種国家はくたびれるが、素晴らしい(4)
第25回　差別：多民族多人種国家はくたびれるが、素晴らしい(5)
第26回　差別：多民族多人種国家はくたびれるが、素晴らしい(6)
第27回　差別：多民族多人種国家はくたびれるが、素晴らしい(7)
第28回　まとめ
第29回　まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　30%　出席　30%
レポートとは、毎回の講義の終りに記述するコメントペーパーのことです。これは出席票にもなります。コメントペーパーには、「講義内容に関すること」を記述します。関係のないことを、だらしなく記述することは減点対象となります。

【教科書】
テキストは使用しません。担当教員の作成したハンドアウトを使用します。

【参考文献】
以下の文献を読めば、一層に講義内容が理解できるし楽しめるでしょう。

(1)ロバート・スクラー著・鈴木主税『アメリカ映画の文化史』上下巻（講談社、1995）

(2)鈴木透著『現代アメリカを観る---映画が描く超大国の鼓動』（丸善ライブラリ、1998）

(3)八尋春海著『映画で学ぶアメリカ文化』(スクリーン・プレイ、1999)

(4)北野圭介著『ハリウッド100年史講義---夢の工場から夢の王国へ』（平凡社、2001）

(5)大場正明＋編集部『Cine Lesson 15　アメリカ映画主義---もうひとつのUSA』（フィルムアート社、2002）

(6)岸本裕子著『スクリーンに投影されるアメリカ』(メタ・ブレーン2003)

(7)村山一郎編『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』（フィルムアート社、2003）

(8)カーラ・フレチャロウ著・ポップ・カルチャー研究会訳『映画でわかるカルチャー・スタディーズ』（フィルムアート社、2003）

(9)『アメリカ映画がわかる。』（アエラムック　91）（朝日新聞社、2003）

(10) 副島隆彦著『ハリウッド映画で読む世界覇権国アメリカ』上下巻（講談社+α文庫、2004）

(11) 福井次郎『戦争映画が教えてくれる現代史の読み方』（彩流社, 2007

科目名　クラス　講義区分	
医学入門Ａ　＜秋＞	
郭　　麗　月	２単位

【講義概要】
① 人の成長・発達
② 心身機能と身体構造の概要
③ 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要
④ 健康の捉え方
⑤ 疾病と障害の概要
⑥ リハビリテーションの概要

【学習目標】
① 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。
② 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。
③ リハビリテーションの概要について理解する。

社会福祉士に必要な「人体の構造・機能及び疾病」についての知識を理解させる。

【講義計画】
第１回　医療と福祉（イントロダクション）
第２回　人体の構造と機能　（１)呼吸器・循環器系
第３回　〃　（２)消化器系
第４回　〃　（３)骨格・筋肉系
第５回　〃　（４)神経・内分泌系
第６回　医学的リハビリテーション（１)疾病と障害・国際生活機能分類
第７回　〃　（２)リハビリテーションの実際
第８回　現代社会と疾患　（１)がん、生活習慣病 ①
第９回　〃　（２)　〃　②
第10回　〃　（３)各種感染症
第11回　〃　（４)神経・精神疾患
第12回　〃　（５)先天性疾患
第13回　〃　（６)難病
第14回　〃　（７)その他
第15回　まとめと試験

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　30%　出席　０%
レポート、定期試験の成績

【教科書】
福祉臨床シリーズ委員会編「人体の構造と機能及び疾病」弘文堂

【備考】
＜02～08生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
医学入門Ｂ　＜秋＞	
郭　　麗　月	２単位

【講義概要】
① 医学・医療の歴史的変遷と生命倫理
② 医療制度の現状と課題
③ 公衆衛生の現状
④ 医事法制

【学習目標】
① 高度化、複雑化している現在の医療が抱える問題と社会福祉の役割について理解する。
② 健康問題を公衆衛生、医療施策、地域福祉などの関連する分野から広い視点で捉えて理解する。

【講義計画】
第１回　生命倫理とは何か①
第２回　〃　②
第３回　医学・医療の歴史的変遷
第４回　現代医療の問題点
第５回　保健医療対策の現状①
第６回　〃　②
第７回　〃　③
第８回　〃　④
第９回　保健医療対策の課題①
第10回　〃　②
第11回　〃　③
第12回　公衆衛生の現状①
第13回　〃　②
第14回　医事法制
第15回　まとめと試験

【成績評価の方法】
レポート　100%
講義期間に提示したテーマから選択して、レポートを作成し、その内容で評価する

【教科書】
福祉臨床シリーズ委員会編「人体の構造と機能及び疾病」弘文堂

【参考文献】
適時指定する。

【備考】
＜02～08生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
イギリス文化研究－ヴィクトリア朝ロンドンの世界　＜春集＞	
日　下　隆　平	４単位

【講義概要】
この講義はヴィクトリア朝ロンドンの社会と文化を学ぶことを目的としています。ヴィクトリア朝とは、大雑把に言えば、世界に冠たる19世紀の大英帝国の歴史と言えますが、良くも悪しくも現代イギリスの基礎形成がなされた時期と言えます。講義では歴史的知識をたんに学ぶのではなく、「どのような人々が、どんな生活を送ったのか」を考えられるようなトピックを取り上げてゆきたいと考えています。方法としては、前半部では概論的に時代を説明し、後半部では時代思潮を特徴づけるような項目について扱いながら、一方ではイーストエンドに住む様々な人々の姿なども取り上げて行くつもりです。

【学習目標】
授業ではパワーポイントを用いて、必要な場合には絵画やビデオなどの映像も使用しながら授業を進めてゆきます。前半部分を説明にあて、後半部では 英文資料を講読しながら解説していきます。授業は以上のような方針ですが、内容についてはこの頃の典型的な特徴を持つような時代思潮を芸術作品などによって検討していきます。取り上げるトピックは以下の通りです。

【講義計画】
第１回　導入
第２回　ヴィクトリア朝までのロンドン
第３回　ヴィクトリア朝時代概観
第４回　ヴィクトリア朝初期ーその１
第５回　ヴィクトリア朝初期ーその２
第６回　ヴィクトリア朝中期ー大英博覧会
第７回　ヴィクトリア朝中期ーロンドンの発展
第８回　ヴィクトリア朝末期ー女性像
第９回　ヴィクトリア朝末期期ー脱植民地と文学
第10回　ブレイクから見た社会ーその１
第11回　ブレイクから見た社会ーその２
第12回　路地裏のロンドンーその１
第13回　路地裏のロンドンーその２
第14回　ビデオによる理解
第15回　路地裏のロンドンーその３
第16回　復習テスト
第17回　中世主義
第18回　ゴシック・リバイバルーその１
第19回　ゴシック・リバイバルーその２
第20回　ラファエル前派の芸術ーその１
第21回　ラファエル前派の芸術ーその２
第22回　ケルト復興ーその１
第23回　ケルト復興ーその２
第24回　都市と文学ーJames Thomson,'The City of the Dreadful Night'
第25回　都市と文学-Charles Dickens
第26回　都市と文学-世紀末の詩「ロンドン、ロンドン、ロンドン」
第27回　まとめ
第28回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　20%

【教科書】
毎回、プリント配布（英文）

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
イギリス文化研究－英詩に親しむ　＜秋集＞	
岡　田　章　子	4単位

【講義概要】

本講義はイギリス文化、特にイギリスが経済的に大発展を遂げたビクトリア時代(1837-1901)の社会を背景に、その中に生きるごく普通の人々を描いたTennyson: Enoch Arden(1864年出版)を読みながら、英詩に親しむことを目標とする。ビクトリア時代の発展は歴史上まれなもので、たとえば1839年からの10年間に織物製品の生産量は15倍以上となり、また1870年代にはイギリスの外国貿易総額はフランス・ドイツ・イタリアを合せた以上の額になった。この大繁栄の中で人々は生きる喜びや苦悩を味わったのであるから、当然そこには社会の矛盾を感じることになったのである。Enoch Ardenは社会の繁栄の中での個人の苦悩を描き、善意を描き出す作品である。この作品を通して19世紀のイギリス文化を学ぶ。

【学習目標】

Enoch Ardenを読み進みながら、とかくなじみにくいと思われるイギリス詩になじむことを目標とする。

【講義計画】

第１回　ビクトリア時代のイギリス社会(1)
第２回　ビクトリア時代のイギリス社会(1)
第３回　同上(2)
第４回　同上(2)
第５回　Tennysonについて(1)
第６回　Tennysonについて(1)
第７回　同上(2)
第８回　同上(2)
第９回　Enoch Arden講読(1)
第10回　Enoch Arden講読(1)
第11回　同上(2)
第12回　同上(2)
第13回　同上(3)
第14回　同上(3)
第15回　同上(4)
第16回　同上(4)
第17回　同上(5)
第18回　同上(5)
第19回　同上(6)
第20回　同上(6)
第21回　同上(7)
第22回　同上(7)
第23回　同上(8)
第24回　同上(8)
第25回　Enoch Ardenまとめ
第26回　Enoch Ardenまとめ
第27回　Tennysonとイギリス社会 まとめ
第28回　テスト

【成績評価の方法】

試験　70%　レポート　20%　出席　10%
定期試験のほかに随時小テストを実施し、成績評価に加える。

【教科書】

テニソン イーノック・アーデン 研究社

【参考文献】

J. H. Buckley: The Victorian Temper: A Study in Literary Culture. (New York: Vintage Books, 1951)

【備考】

＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ｉａ　01＜春＞	
畷　　絵　里	1単位

【講義概要】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。

【学習目標】

基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】

第１回　・授業の概要・方針説明
　　・イタリア語での簡単な挨拶
　　・自己紹介
第２回　発音の仕方やイントネーションの確認
第３回　IoとTuの対話（Essere）
第４回　不定冠詞と定冠詞（単数）
第５回　数字１-10と不定冠詞と定冠詞（複数）
第６回　-are動詞
第７回　復習
第８回　中間試験
第９回　Avereの使い方と年齢の言い方
第10回　形容詞
第11回　-ere動詞
第12回　動詞の応用
第13回　冠詞前置詞の使い方
第14回　試験

【成績評価の方法】

平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、二回（a,b共通）の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ｉａ　02＜春＞	
面　地　　敦	１単位

【講義概要】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にとってなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくよう演習形式をとる。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行う。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使って欲しい。

【講義計画】
第１回　授業の概要・方針説明・
　　イタリア語での簡単なあいさつ・
　　自己紹介
第２回　発音の仕方やイントネーションの確認
第３回　IoとTuの対話（essere）
第４回　不定冠詞と定冠詞（単数）
第５回　数字１－10と不定冠詞と定冠詞（複数）
第６回　-are動詞
第７回　復習
第８回　中間試験
第９回　動詞Avereの使い方と年齢の言い方
第10回　形容詞
第11回　-ere動詞
第12回　動詞の応用
第13回　冠詞、前置詞の使い方
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、二回（a,b共通）の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行う。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各自の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
・教科書の他に地所を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』を勧めるが、他の辞書でも良い。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ｉａ　03＜春＞	
畷　　絵　里	１単位

【講義概要】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・方針説明
　　・イタリア語での簡単な挨拶
　　・自己紹介
第２回　発音の仕方やイントネーションの確認
第３回　IoとTuの対話（Essere）
第４回　不定冠詞と定冠詞（単数）
第５回　数字１-10と不定冠詞と定冠詞（複数）
第６回　-are動詞
第７回　復習
第８回　中間試験
第９回　Avereの使い方と年齢の言い方
第10回　形容詞
第11回　-ere動詞
第12回　動詞の応用
第13回　冠詞前置詞の使い方
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、二回（a,b共通）の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ｉｂ　01＜春＞	
和　栗　珠　里	１単位

【講義概要】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・方針説明
　　・イタリア語での簡単な挨拶
　　・自己紹介
第２回　発音の仕方やイントネーションの確認
第３回　IoとTuの対話（Essere）
第４回　不定冠詞と定冠詞（単数）
第５回　数字１-10と不定冠詞と定冠詞（複数）
第６回　-are動詞
第７回　復習
第８回　中間試験
第９回　Avereの使い方と年齢の言い方
第10回　形容詞
第11回　-ere動詞
第12回　動詞の応用
第13回　冠詞前置詞の使い方
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、二回（a,b共通）の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ｉｂ　02＜春＞	
暖　　絵　里	１単位

【講義概要】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・方針説明
　　・イタリア語での簡単な挨拶
　　・自己紹介
第２回　発音の仕方やイントネーションの確認
第３回　IoとTuの対話（Essere）
第４回　不定冠詞と定冠詞（単数）
第５回　数字１-10と不定冠詞と定冠詞（複数）
第６回　-are動詞
第７回　復習
第８回　中間試験
第９回　Avereの使い方と年齢の言い方
第10回　形容詞
第11回　-ere動詞
第12回　動詞の応用
第13回　冠詞前置詞の使い方
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、二回（a,b共通）の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅰb　03＜春＞	
牧　　みぎわ	1単位

【講義概要】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
第1回　・授業の概要・方針説明
　　・イタリア語での簡単な挨拶
　　・自己紹介
第2回　発音の仕方やイントネーションの確認
第3回　IoとTuの対話（Essere）
第4回　不定冠詞と定冠詞（単数）
第5回　数字1-10と不定冠詞と定冠詞（複数）
第6回　-are動詞
第7回　復習
第8回　中間試験
第9回　Avereの使い方と年齢の言い方
第10回　形容詞
第11回　-ere動詞
第12回　動詞の応用
第13回　冠詞前置詞の使い方
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、二回（a,b共通）の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅱa　01＜秋＞	
畷　　絵　里	1単位

【講義概要】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
第1回　春学期の復習
第2回　-ire動詞と時間の言い方
第3回　isco型
第4回　所有形容詞
第5回　直接代名詞
第6回　Piacereの用法と間接代名詞
第7回　復習
第8回　中間試験
第9回　不規則動詞（volere,dovere,potere）
第10回　不規則動詞（venire,uscire,rimanere）
第11回　Avereを用いた近過去
第12回　Essereを用いた近過去
第13回　近過去の確認
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、二回（a,b共通）の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅱａ　02＜秋＞	
面　地　　敦	1単位

【講義概要】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にとってなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくよう演習形式をとる。

【学習目標】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にとってなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくよう演習形式をとる。

【講義計画】
第１回　春学期の復習
第２回　-ire動詞と時間の言い方
第３回　-isco型の動詞
第４回　所有形容詞
第５回　直接代名詞
第６回　動詞piacereの用法と間接代名詞
第７回　復習
第８回　中間試験
第９回　不規則動詞（volere、dovere、potere）
第10回　不規則動詞（venire、uscire、rimanere）
第11回　Avereを用いた近過去
第12回　Essereを用いた近過去
第13回　近過去の確認
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、二回（a,b共通）の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行う。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各自の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
・教科書の他に地所を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』を勧めるが、他の辞書でも良い。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅱａ　03＜秋＞	
畷　　絵　里	1単位

【講義概要】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
第１回　春学期の復習
第２回　-ire動詞と時間の言い方
第３回　isco型
第４回　所有形容詞
第５回　直接代名詞
第６回　Piacereの用法と間接代名詞
第７回　復習
第８回　中間試験
第９回　不規則動詞（volere,dovere,potere）
第10回　不規則動詞（venire,uscire,rimanere）
第11回　Avereを用いた近過去
第12回　Essereを用いた近過去
第13回　近過去の確認
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、二回（a,b共通）の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅱｂ　01＜秋＞	
和　栗　珠　里	1単位

【講義概要】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
第１回　春学期の復習
第２回　-ire動詞と時間の言い方
第３回　isco型
第４回　所有形容詞
第５回　直接代名詞
第６回　Piacereの用法と間接代名詞
第７回　復習
第８回　中間試験
第９回　不規則動詞（volere, dovere, potere）
第10回　不規則動詞（venire, uscire, rimanere）
第11回　Avereを用いた近過去
第12回　Essereを用いた近過去
第13回　近過去の確認
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、二回（a, b共通）の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅱｂ　02＜秋＞	
畷　　絵　里	1単位

【講義概要】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
第１回　春学期の復習
第２回　-ire動詞と時間の言い方
第３回　isco型
第４回　所有形容詞
第５回　直接代名詞
第６回　Piacereの用法と間接代名詞
第７回　復習
第８回　中間試験
第９回　不規則動詞（volere, dovere, potere）
第10回　不規則動詞（venire, uscire, rimanere）
第11回　Avereを用いた近過去
第12回　Essereを用いた近過去
第13回　近過去の確認
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、二回（a, b共通）の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅱｂ　03＜秋＞	
牧　　みぎわ	1単位

【講義概要】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。

【学習目標】
基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
第１回　春学期の復習
第２回　-ire動詞と時間の言い方
第３回　isco型
第４回　所有形容詞
第５回　直接代名詞
第６回　Piacereの用法と間接代名詞
第７回　復習
第８回　中間試験
第９回　不規則動詞（volere, dovere, potere）
第10回　不規則動詞（venire, uscire, rimanere）
第11回　Avereを用いた近過去
第12回　Essereを用いた近過去
第13回　近過去の確認
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、二回（a, b共通）の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅲａ　01＜春＞	
和　栗　珠　里	1単位

【講義概要】
イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】
実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
第１回　授業の概要・指導方針の説明
　　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習と実戦練習（イタリア語の構造のまとめ）

第２回　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
第３回　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
第４回　再帰動詞（現在）
第５回　再帰動詞（過去）
第６回　再帰動詞のまとめ
第７回　中間試験
第８回　半過去Ⅰ
第９回　半過去Ⅱ
第10回　半過去Ⅲ
第11回　未来形
第12回　条件法
第13回　復習
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。課題は、問題集（毎週提出）、イタリア語作文や伊文和訳（随時）など。試験は、筆記試験（各学期の中間および期末）とオーラルテスト（随時）である。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅲａ　02＜春＞	
Antonio　Giliberti	1単位

【講義概要】
イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】
実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・指導方針の説明
　　・イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習と実戦練習（イタリア語の構造のまとめ）
第２回　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
第３回　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
第４回　再帰動詞（現在）
第５回　再帰動詞（過去）
第６回　再帰動詞のまとめ
第７回　中間試験
第８回　半過去Ⅰ
第９回　半過去Ⅱ
第10回　半過去Ⅲ
第11回　未来形
第12回　条件法
第13回　復習
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。課題は、問題集（毎週提出）、イタリア語作文や伊文和訳（随時）など。試験は、筆記試験（各学期の中間および期末）とオーラルテスト（随時）である。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅲａ　03＜春＞	
畷　　絵　里	1単位

【講義概要】
イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】
実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
第１回　授業の概要・指導方針の説明
　　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習と実戦練習（イタリア語の構造のまとめ）
第２回　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
第３回　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
第４回　再帰動詞（現在）
第５回　再帰動詞（過去）
第６回　再帰動詞のまとめ
第７回　中間試験
第８回　半過去Ⅰ
第９回　半過去Ⅱ
第10回　半過去Ⅲ
第11回　未来形
第12回　条件法
第13回　復習
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。課題は、問題集（毎週提出）、イタリア語作文や伊文和訳（随時）など。試験は、筆記試験（各学期の中間および期末）とオーラルテスト（随時）である。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅲｂ　01＜春＞	
Antonio　Giliberti	１単位

【講義概要】
イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】
実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・指導方針の説明
　　・イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習と実戦練習（イタリア語の構造のまとめ）
第２回　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
第３回　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
第４回　再帰動詞（現在）
第５回　再帰動詞（過去）
第６回　再帰動詞のまとめ
第７回　中間試験
第８回　半過去Ⅰ
第９回　半過去Ⅱ
第10回　半過去Ⅲ
第11回　未来形
第12回　条件法
第13回　復習
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。課題は、問題集（毎週提出）、イタリア語作文や伊文和訳（随時）など。試験は、筆記試験（各学期の中間および期末）とオーラルテスト（随時）である。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅲｂ　02＜春＞	
牧　　みぎわ	１単位

【講義概要】
イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】
実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・指導方針の説明
　　・イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習と実戦練習（イタリア語の構造のまとめ）
第２回　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
第３回　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
第４回　再帰動詞（現在）
第５回　再帰動詞（過去）
第６回　再帰動詞のまとめ
第７回　中間試験
第８回　半過去Ⅰ
第９回　半過去Ⅱ
第10回　半過去Ⅲ
第11回　未来形
第12回　条件法
第13回　復習
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。課題は、問題集（毎週提出）、イタリア語作文や伊文和訳（随時）など。試験は、筆記試験（各学期の中間および期末）とオーラルテスト（随時）である。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅲｂ　03＜春＞	
Antonio　Giliberti	１単位

【講義概要】
イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】
実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・指導方針の説明
　　・イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習と実戦練習（イタリア語の構造のまとめ）
第２回　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
第３回　イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
第４回　再帰動詞（現在）
第５回　再帰動詞（過去）
第６回　再帰動詞のまとめ
第７回　中間試験
第８回　半過去Ⅰ
第９回　半過去Ⅱ
第10回　半過去Ⅲ
第11回　未来形
第12回　条件法
第13回　復習
第14回　試験

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。課題は、問題集（毎週提出）、イタリア語作文や伊文和訳（随時）など。試験は、筆記試験（各学期の中間および期末）とオーラルテスト（随時）である。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅳａ　01＜秋＞	
和　栗　珠　里	１単位

【講義概要】
イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】
実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・指導方針の説明
　　・演習（１）：イタリア語を用いたパフォーマンス（イタリア語劇）の練習
第２回　演習（１）
第３回　演習（１）
第４回　演習（１）
第５回　演習（１）
第６回　演習（１）
第７回　演習（１）
第８回　演習（１）本番
第９回　演習（１）：オーラル試験、イタリア語検定試験（実力）
第10回　講読（１）
第11回　講読（２）
第12回　演習（２）：イタリア文化についてのプレゼンテーション（イタリア語）の準備
第13回　演習（２）
第14回　演習（２）：プレゼンテーションの発表

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。特にパフォーマンス、プレゼンテーションの成果を重要視する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅳａ　02＜秋＞	
Antonio　Giliberti	1単位

【講義概要】
イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】
実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・指導方針の説明
　　・演習（１）：イタリア語を用いたパフォーマンス（イタリア語劇）の練習
第２回　演習（１）
第３回　演習（１）
第４回　演習（１）
第５回　演習（１）
第６回　演習（１）
第７回　演習（１）
第８回　演習（１）本番
第９回　演習（１）：オーラル試験、イタリア語検定試験（実力）
第10回　講読（１）
第11回　講読（２）
第12回　演習（２）：イタリア文化についてのプレゼンテーション（イタリア語）の準備
第13回　演習（２）
第14回　演習（２）：プレゼンテーションの発表

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。特にパフォーマンス、プレゼンテーションの成果を重要視する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu’ attivo』（イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅳａ　03＜秋＞	
暖　　絵　里	1単位

【講義概要】
イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】
実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・指導方針の説明
　　・演習（１）：イタリア語を用いたパフォーマンス（イタリア語劇）の練習
第２回　演習（１）
第３回　演習（１）
第４回　演習（１）
第５回　演習（１）
第６回　演習（１）
第７回　演習（１）
第８回　演習（１）本番
第９回　演習（１）：オーラル試験、イタリア語検定試験（実力）
第10回　講読（１）
第11回　講読（２）
第12回　演習（２）：イタリア文化についてのプレゼンテーション（イタリア語）の準備
第13回　演習（２）
第14回　演習（２）：プレゼンテーションの発表

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。特にパフォーマンス、プレゼンテーションの成果を重要視する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu’ attivo』（イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅳｂ　01＜秋＞	
Antonio　Giliberti	1単位

【講義概要】
イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】
実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・指導方針の説明
　　・演習（１）：イタリア語を用いたパフォーマンス（イタリア語劇）の練習
第２回　演習（１）
第３回　演習（１）
第４回　演習（１）
第５回　演習（１）
第６回　演習（１）
第７回　演習（１）
第８回　演習（１）本番
第９回　演習（１）：オーラル試験、イタリア語検定試験（実力）
第10回　講読（１）
第11回　講読（２）
第12回　演習（２）：イタリア文化についてのプレゼンテーション（イタリア語）の準備
第13回　演習（２）
第14回　演習（２）：プレゼンテーションの発表

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。特にパフォーマンス、プレゼンテーションの成果を重要視する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅳｂ　02＜秋＞	
牧　　みぎわ	1単位

【講義概要】
イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】
実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・指導方針の説明
　　・演習（１）：イタリア語を用いたパフォーマンス（イタリア語劇）の練習
第２回　演習（１）
第３回　演習（１）
第４回　演習（１）
第５回　演習（１）
第６回　演習（１）
第７回　演習（１）
第８回　演習（１）本番
第９回　演習（１）：オーラル試験、イタリア語検定試験（実力）
第10回　講読（１）
第11回　講読（２）
第12回　演習（２）：イタリア文化についてのプレゼンテーション（イタリア語）の準備
第13回　演習（２）
第14回　演習（２）：プレゼンテーションの発表

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。特にパフォーマンス、プレゼンテーションの成果を重要視する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名　クラス　講義区分	
イタリア語Ⅳｂ　03＜秋＞	
Antonio　Giliberti	1単位

【講義概要】
イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】
実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
第１回　・授業の概要・指導方針の説明
　　・演習（１）：イタリア語を用いたパフォーマンス（イタリア語劇）の練習
第２回　演習（１）
第３回　演習（１）
第４回　演習（１）
第５回　演習（１）
第６回　演習（１）
第７回　演習（１）
第８回　演習（１）本番
第９回　演習（１）：オーラル試験、イタリア語検定試験（実力）
第10回　講読（１）
第11回　講読（２）
第12回　演習（２）：イタリア文化についてのプレゼンテーション（イタリア語）の準備
第13回　演習（２）
第14回　演習（２）プレゼンテーションの発表

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。特にパフォーマンス、プレゼンテーションの成果を重要視する。

【教科書】
・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの）
・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名　クラス　講義区分	
一般経済史　01＜通期＞	
富　澤　修　身	4単位

【講義概要】
まず、一般経済史で学ぶ内容を詳しい目次と年表で確認する。次に、イギリス産業革命を論じて、現代に通じる大きな経済変化を論じる。以上を踏まえて、産業革命発生の条件がいかに準備されたかについて18世紀の経済史を論じ、産業革命が生み出した19世紀の経済史、大きな企業、大きな労働組合、大きな政府に特徴づけられる20世紀の経済史と順番に論じる。21世紀の経済史は20世紀末の経済史の中で取り上げる。

【学習目標】
2008年９月に顕在化したアメリカ発の金融危機と実体経済の危機は、世界同時不況となって、前代未聞の事態に世界を陥れた。世界経済は、そして日本経済はこれからどうなるのであろうか。今こそ、歴史から学び、現状を正しく理解し、その成果を未来に生かすことが求められている。一般経済史の講義では、現代を理解し、未来を構想するための基本的な考え方と知識を学ぶ。

【講義計画】
第１回　１.はじめに
第２回　２.産業革命　２．１.イギリス産業革命（１）
第３回　２．１.イギリス産業革命（２）
第４回　２．１.イギリス産業革命（３）
第５回　２．１.イギリス産業革命（４）
第６回　２．２.後発国・地域の工業化（１）
第７回　２．２.後発国・地域の工業化（２）
第８回　２．２.後発国・地域の工業化（３）
第９回　３.18世紀の経済史　３．１.問屋制経営（１）
第10回　３．１.問屋制経営（２）
第11回　３．２.協業（１）
第12回　３．２.協業（２）
第13回　３．３.マニュファクチュア（１）
第14回　３．３.マニュファクチュア（２）
第15回　３．３.マニュファクチュア（３）
第16回　４.19世紀の経済史　４．１.機械制大工業（１）
第17回　４．１.機械制大工業（２）
第18回　４．１.機械制大工業（３）
第19回　４．２.鉄道経営（１）
第20回　４．２.鉄道経営（２）
第21回　４．２.補論　電力経営
第22回　５.20世紀の経済史　５．１.大企業の登場（１）
第23回　５．１.大企業の登場（２）
第24回　５．１.補論　独占的大企業の事例
第25回　５．２.1930年代ニューディール（１）
第26回　５．２.1930年代ニューディール（２）
第27回　５．３.戦後経済史（１）
第28回　５．３.戦後経済史（２）

【成績評価の方法】
レポート　70％　出席　30％
レポートは、前期、後期の２回行う。授業中にも区切りのよいところで、小レポートを10分ほど使って作成してもらう。６割以上の出席回数は大前提。

【教科書】
講義資料として、コピーを配布する。

科目名　クラス　講義区分	
一般経済史　02＜春集＞	
前　田　治　郎	4単位

【講義概要】

人類史において、人間はその自然変革能力を高めてきた。とりわけ資本主義の成立以後、この発展は加速度を増し、今日の高い生産力にまで到達した。しかし他方、依然として地球上には飢餓人口が存在し、環境問題は猶予ならないほどに深刻化し、また人殺しのための兵器が科学技術の最先端を代表しているといった現実も忘れるべきではない。この講義の前半では、資本主義を相対化するために、資本主義も含む通史的な経済史の発展傾向を、3つの観点（生産力、経済システム、国家）から考え、後半では、資本主義そのものの発展を理解するのに必要な基礎的諸概念を取り上げる。それらを通じて考えたいことは、「資本主義とは何か？」ということである。

【学習目標】

広い視野と観点から歴史を参照しつつ、現代の諸問題を見つめる眼を養いたい。

【講義計画】

第1回　講義概要の説明
第2回　生産力発展の現段階
第3回　生産力の構造（労働と社会的生産力）
第4回　生産力の構造（生産手段の発展1）
第5回　生産力の構造（生産手段の発展2）
第6回　生産力発展の歴史的傾向
第7回　経済システムとは何か
第8回　アメリカインディアンの社会
第9回　アジア的専制国家
第10回　ギリシア・ローマの都市国家
第11回　封建社会
第12回　資本主義
第13回　国家（社会契約説）
第14回　国家（国家有機体論）
第15回　国家（階級国家論）
第16回　対外的国家と世界
第17回　絶対主義と市民革命
第18回　産業革命
第19回　先進国と後進国
第20回　資本主義の世界体制
第21回　国際通貨体制
第22回　独占資本主義
第23回　帝国主義と第一次世界大戦
第24回　1920年代の世界経済1
第25回　1920年代の世界経済2
第26回　世界大恐慌
第27回　社会主義と福祉国家
第28回　講義のまとめ

【成績評価の方法】

授業中に予告なく7回程度の小テストを行う。その意味では出席も成績に反映する。

科目名　クラス　講義区分	
異文化間コミュニケーション論　01＜春集＞	
金　本　伊津子	4単位

【講義概要】

情報は瞬時にして世界を駆け巡り、物は国の境を越え、人は文化の壁を越えはじめた。地球規模で地域、組織、家族の多文化化が進み、日常生活の中でも異文化と出会う機会が増大した。このような国際社会の関係性の変化に伴い、文化的背景が異なる人々とのコミュニケーションをとおして「共生」する能力はますます重要視されてきている。

この科目においては、言語・思考・価値観など文化的背景の異なる人々がコミュニケーションをする場合に生じる様々な現象や問題点を理解する。

【学習目標】

前半の15回は、異文化間コミュニケーション論における基本的な概念の説明を行う。後半の15回は、日本的コミュニケーションの特性を明らかにしながら、英語教員志望者に配慮し、主に世界の憧れと反発の対象である「アメリカ人」のコミュニケーション行動の特徴の分析を行う。

異文化間コミュニケーションの最大の問題は「我」にある。相手（異文化）のみならず自分（自文化）のコミュニケーションの特性（癖）を理解することは、文化を越える第一歩となるに違いない。

【講義計画】

第1回　コースの概要
第2回　文化とは？
第3回　文化とアイデンティティ
第4回　カルチャーショックのプロセス
第5回　コミュニケーションのメカニズム
第6回　言語とコミュニケーション(1)：言語の構造
第7回　言語とコミュニケーション(2)：言語相対主義
第8回　非言語コミュニケーションの類型(1)
第9回　非言語コミュニケーションの類型(2)
第10回　非言語コミュニケーションの文化比較
第11回　コミュニケーションの障害(1)：ステレオ・タイプと偏見
第12回　コミュニケーションの障害(2)：異文化理解（正解・誤解）
第13回　ディアスポラ：文化の境界を生きる人々
第14回　グローバリゼーションと文化の衝突
第15回　復習テストにむけての総復習
第16回　復習テスト
第17回　異文化屈折・異文化摩擦・異文化衝突の理論
第18回　文化の志向性とコミュニケーション・パターン
第19回　アメリカの文化とコミュニケーション(1)：移民国家アメリカにおける国民性形成の過程
第20回　アメリカの文化とコミュニケーション(2)：大統領選挙にみる多数決原理
第21回　アメリカの文化とコミュニケーション(3)：裁判制度にみる意思決定のプロセス
第22回　アメリカの文化とコミュニケーション(4)：宗教国家アメリカにおける対立構造
第23回　日本の文化とコミュニケーション(1)：異文化受容の歴史
第24回　日本の文化とコミュニケーション(2)：分立構造のメカニズム
第25回　日本の文化とコミュニケーション(3)：対立回避のメカニズム
第26回　異文化間コミュニケーションの研究方法(1)
第27回　異文化間コミュニケーションの研究方法(2)
第28回　多文化共生社会にむけて
第29回　学期末テストにむけての総復習
第30回　学期末テスト

【成績評価の方法】

復習テスト20%　学期末テスト80%
（出席・提出物も参考にして総合的に評価します。）

【教科書】

石井敏、久米昭元、遠山淳（編）『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣

【参考文献】

石井敏、久米昭元（編）、金本伊津子（共著）（2005）『異文化コミュニケーション研究法』有斐閣
石井敏、久米昭元、遠山淳（編）（2001）『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣

科目名　クラス　講義区分	
異文化間コミュニケーション論　02＜秋集＞	
金　本　伊津子	4単位

【講義概要】

情報は瞬時にして世界を駆け巡り、物は国の境を越え、人は文化の壁を越えはじめた。地球規模で地域、組織、家族の多文化化が進み、日常生活の中でも異文化と出会う機会が増大した。このような国際社会の関係性の変化に伴い、文化的背景が異なる人々とのコミュニケーションをとおして「共生」する能力はますます重要視されてきている。

この科目においては、言語・思考・価値観など文化的背景の異なる人々がコミュニケーションをする場合に生じる様々な現象や問題点を理解する。

【学習目標】

前半の15回は、異文化間コミュニケーション論における基本的な概念の説明を行う。後半の15回は、日本的コミュニケーションの特性を明らかにしながら、英語教員志望者に配慮し、主に世界の憧れと反発の対象である「アメリカ人」のコミュニケーション行動の特徴の分析を行う。

異文化間コミュニケーションの最大の問題は「我」にある。相手（異文化）のみならず自分（自文化）のコミュニケーションの特性（癖）を理解することは、文化を越える第一歩となるに違いない。

【講義計画】

第１回　コースの概要
第２回　文化とは？
第３回　文化とアイデンティティ
第４回　カルチャーショックのプロセス
第５回　コミュニケーションのメカニズム
第６回　言語とコミュニケーション（１）：言語の構造
第７回　言語とコミュニケーション（２）：言語相対主義
第８回　非言語コミュニケーションの類型（１）
第９回　非言語コミュニケーションの類型（２）
第10回　非言語コミュニケーションの文化比較
第11回　コミュニケーションの障害（１）：ステレオ・タイプと偏見
第12回　コミュニケーションの障害（２）：異文化理解（正解・誤解）
第13回　ディアスポラ：文化の境界を生きる人々
第14回　グローバリゼーションと文化の衝突
第15回　復習テストにむけての総復習
第16回　復習テスト
第17回　異文化屈折・異文化摩擦・異文化衝突の理論
第18回　文化の志向性とコミュニケーション・パターン
第19回　アメリカの文化とコミュニケーション（１）：移民国家アメリカにおける国民性形成の過程
第20回　アメリカの文化とコミュニケーション（２）：大統領選挙にみる多数決原理
第21回　アメリカの文化とコミュニケーション（３）：裁判制度にみる意思決定のプロセス
第22回　アメリカの文化とコミュニケーション（４）：宗教国家アメリカにおける対立構造
第23回　日本の文化とコミュニケーション（１）：異文化受容の歴史
第24回　日本の文化とコミュニケーション（２）：分立構造のメカニズム
第25回　日本の文化とコミュニケーション（３）：対立回避のメカニズム
第26回　異文化間コミュニケーションの研究方法（１）
第27回　異文化間コミュニケーションの研究方法（２）
第28回　多文化共生社会にむけて
第29回　学期末テストにむけての総復習
第30回　学期末テスト

【成績評価の方法】

復習テスト20%　学期末テスト80%
（出席・提出物も参考にして総合的に評価します。）

【教科書】

石井敏、久米昭元、遠山淳（編）『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣

【参考文献】

石井敏、久米昭元（編）、金本伊津子（共著）（2005）『異文化コミュニケーション研究法』有斐閣
石井敏、久米昭元、遠山淳（編）（2001）『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣

科目名　クラス　講義区分	
医療保健福祉論　＜通期＞	
藤　田　　譲	4単位

【講義概要】

私たちの日常生活において、保健医療分野はもっとも身近な領域である。本講義では、日常生活で誰しも経験する患者や家族の立場を念頭に、日本の保健医療サービスの制度的側面・サービス供給システムを解説し、あわせて保健医療分野におけるソーシャルワークの実際を紹介していく。

【学習目標】

（１）相談援助活動において必要となる医療制度（医療保険、医療供給体制、診療報酬に関する内容を含む）を知る
（２）保健医療サービスにおける各専門職の役割と実際、多職種協働について知る
（３）保健医療サービスに関する政策的動向と市民のニーズを踏まえ、保健医療サービスの抱える今日的課題について理解する
（４）保健医療分野におけるソーシャルワークの概要について理解する

【講義計画】

第１回　日常生活における保健医療サービス
第２回　保健医療サービスの実際　概要
第３回　事例で学ぶ保健医療サービス１（医療費）
第４回　事例で学ぶ保健医療サービス２（在宅ケア）
第５回　事例で学ぶ保健医療サービス３（退院支援）
第６回　事例で学ぶ保健医療サービス４（終末期ケア）
第７回　事例で学ぶ保健医療サービス５（児童虐待）
第８回　医療ソーシャルワーカー業務指針
第９回　医療ソーシャルワーカーの倫理と行動基準
第10回　主な医療関係職種と役割１
第11回　主な医療関係職種と役割２
第12回　チームアプローチ１
第13回　チームアプローチ２
第14回　ネットワークの構築
第15回　自助グループとの関わり
第16回　保健医療サービスの諸問題　概要
第17回　保健医療サービスの諸問題各論１　保健医療サービスを支える法制度
第18回　保健医療サービスの諸問題各論２　医療保険制度の変遷
第19回　保健医療サービスの諸問題各論３　財政から見た医療保険制度
第20回　保健医療サービスの諸問題各論４　診療報酬と保健医療サービス（１）
第21回　保健医療サービスの諸問題各論５　診療報酬と保健医療サービス（２）
第22回　保健医療サービスの諸問題各論６　負担と給付のあり方を考える
第23回　保健医療分野におけるソーシャルワークの現況１　これまでの歴史
第24回　保健医療分野におけるソーシャルワークの現況２　雇用増加の背景
第25回　保健医療分野におけるソーシャルワークの現況３　社会の変化とともに
第26回　保健医療分野におけるソーシャルワークの現況４　理想と現実の狭間
第27回　保健医療分野におけるソーシャルワークの現況５　アメリカから学ぶ（１
第28回　保健医療分野におけるソーシャルワークの現況６　アメリカから学ぶ（２
第29回　これからの課題１
第30回　これからの課題２

【成績評価の方法】

レポート：50%　　出席：50%
レポートは春学期・秋学期の期末にそれぞれ課します（比率はそれぞれ15%ずつ）。このほか、授業中提出の小レポートが各学期２回あり、１回分の比率は全体の５%とします。

【教科書】

資料は適時配布します。

【参考文献】

講義時に適時提示します。

科目名　クラス　講義区分	
インドネシア語Ｉａ　＜春＞	
由　比　邦　子	１単位

【講義概要】
本講義では、インドネシア語の基礎をまず身につける。インドネシア語という言語、ひいてはインドネシア人のものの考え方の特性を常に確認しながら、授業を進めていきたい。

【学習目標】
基本的な文の構造を把握する。インドネシア語の場合、動詞を含まない文と動詞を含む文の２種類があることをしっかり覚えること。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション～インドネシア語とは
第２回　挨拶と自己紹介
第３回　アルファベットと発音
第４回　品詞・文の種類
第５回　動詞を含まない文
第６回　動詞を含む文
第７回　形容詞の使い方
第８回　否定文、中間試験
第９回　疑問文と返答法
第10回　助動詞の使い方
第11回　命令文
第12回　依頼の表現
第13回　国歌「Indonesia Raya」を聴く
第14回　期末試験

【成績評価の方法】
期末試験50%、中間試験30%、出席20%

【参考文献】
講義時に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
インドネシア語Ｉｂ　＜春＞	
Hariadi　Pamungkas	１単位

【講義概要】
インドネシア語の語彙・発音・基本表現・基本文法などをしっかり理解し、自由に会話のなかで使う。と同時に基礎から正しいインドネシア語の書き言葉を学ぶ。インドネシア語の言葉を通じて、インドネシアの事情を知り、インドネシア人の考え方・文化・生活習慣などを理解する。

【学習目標】
継続的な学習ができるように、インドネシア語の基礎知識をしっかり理解し、習った語彙・表現・文法などを繰り返しながら会話のなかで使う。「言葉を使うこと」によって、語彙・表現・文法などの活用をマスターすることができるし、場面ごとに「長い文章」で会話することができるし、最終的にネーティブスピーカーのようにコミュニケーションができる。そのために、授業のなかで、個人の積極的な参加が求められ、色々な課題やグループワークなどを設ける。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、発音の練習
第２回　挨拶と自己紹介
第３回　食べ物、飲み物、食事
第４回　数字
第５回　数字の応用編
第６回　日付、月、年
第７回　時間
第８回　日課
第９回　中間試験、方向
第10回　方角、位置
第11回　場所、行き方
第12回　乗り物、所用時間、料金
第13回　服と体に付けるもの
第14回　プロジェクトワーク

【成績評価の方法】
試験　40%　出席　30%
学習態度・チームワーク：30%

【教科書】
プリント配布、その他の教材

科目名　クラス　講義区分	
インドネシア語Ⅱａ　＜秋＞	
由　比　邦　子	１単位

【講義概要】
本講義では、動詞・名詞にかかわる接頭辞・接尾辞を中心に学習する。接辞の扱いはインドネシア語を特徴づける重要な要素なので、正確に身につけたい。また、もう一つの重要な要素としての受動態もしっかり覚えたい。

【学習目標】
接辞をつけるための、そしてはずすための様々な手続きを身につける。また、受動態は英語の場合とはかなり異なるので、しっかり覚えよう。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション～文の構造の再確認
第２回　接辞の種類
第３回　動詞にかかわる接頭語・接尾語（１）
第４回　動詞にかかわる接頭語・接尾語（２）
第５回　受動態（１）
第６回　受動態（２）
第７回　数詞
第８回　数字を使った表現、中間試験
第９回　名詞にかかわる接頭語・接尾語（１）
第10回　名詞にかかわる接頭語・接尾語（２）
第11回　前置詞の使い方
第12回　時の表現
第13回　クロンチョン「Bengawan Solo」を聴く
第14回　期末試験

【成績評価の方法】
期末試験50％、中間試験30％、出席20％

【参考文献】
授業時に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
インドネシア語Ⅱｂ　＜秋＞	
Hariadi　Pamungkas	１単位

【講義概要】
インドネシア語の語彙・発音・基本表現・基本文法などをしっかり理解し、自由に会話のなかで使う。と同時に基礎から正しいインドネシア語の書き言葉を学ぶ。インドネシア語の言葉を通じて、インドネシアの事情を知り、インドネシア人の考え方・文化・生活習慣などを理解する。

【学習目標】
継続的な学習ができるように、インドネシア語の基礎知識をしっかり理解し、習った語彙・表現・文法などを繰り返しながら会話のなかで使う。「言葉を使うこと」によって、語彙・表現・文法などの活用をマスターすることができるし、場面ごとに「長い文章」で会話することができるし、最終的にネーティブスピーカーのようにコミュニケーションができる。そのために、授業のなかで、個人の積極的な参加が求められ、色々な課題やグループワークなどを設ける。春学期と比べて、グループワークの頻度がより多くなる。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、春学期の復習
第２回　疑問詞
第３回　部屋の中のもの
第４回　買い物
第５回　体の部分
第６回　病気、病院と治療
第７回　仕事と職業
第８回　家族
第９回　中間試験
第10回　生活
第11回　余暇、レジャー
第12回　旅行、観光
第13回　プロジェクトワーク
第14回　プロジェクトワーク

【成績評価の方法】
試験　40％　出席　30％
学習態度・チームワーク：30％

【教科書】
プリント配布、その他の教材

科目名　クラス　講義区分	
インドネシア語Ⅲａ　＜春＞	
由　比　邦　子	１単位

【講義概要】
より長い文を理解するために文のつなぎ方を中心に学習し、インドネシア語による自己表現を目的に、作文の訓練も行なう。あわせて、インドネシアの社会・文化に対する理解も深めていきたい。

【学習目標】
接続詞、関係代名詞の使い方をマスターし、作文能力を高めよう。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション～インドネシア語とは
第２回　接続詞の種類
第３回　等位接続詞
第４回　従位接続詞（１）
第５回　従位接続詞（２）
第６回　従位接続詞（３）
第７回　助動詞をからめた複文
第８回　中間試験（作文を中心とする）
第９回　関係代名詞（１）
第10回　関係代名詞（２）
第11回　関係代名詞（３）
第12回　複雑な構造の文
第13回　ダンドゥッの名曲を聴く
第14回　期末試験

【成績評価の方法】
期末試験50％、中間試験30％、出席20％

【参考文献】
授業時に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
インドネシア語Ⅲｂ　＜春＞	
Hariadi　Pamungkas	１単位

【講義概要】
インドネシア語の語彙・発音・基本表現・基本文法などをしっかり理解し、自由に会話のなかで使う。と同時に基礎から正しいインドネシア語の書き言葉を学ぶ。インドネシア語の言葉を通じて、インドネシアの事情を知り、インドネシア人の考え方・文化・生活習慣などを理解する

【学習目標】
学習の目標は前回習った語彙・基本表現・基本文法などをさらに正しく正確に使うことである。その他に、ネーティブスピーカーのようにより自然なインドネシア語の表現を練習する。そのために、言葉の活用だけではなく、文章と会話のなかで色々な語彙・表現・文法の組み合わせを使ってみる。授業のなかで、個人の積極的な参加が求められ、色々な課題やグループワークなどを設ける。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、前年度の復習
第２回　インドネシア語の文章
第３回　原形名詞、名詞の組み合わせ
第４回　原形動詞、動詞の組み合わせ
第５回　受動態
第６回　命令形
第７回　電話の仕方
第８回　メールの書き方
第９回　中間試験
第10回　原形形容詞
第11回　形容詞の応用編
第12回　副詞
第13回　プロジェクトワーク
第14回　プロジェクトワーク

【成績評価の方法】
試験　40％　出席　30％
学習態度・チームワーク：30％

【教科書】
プリント配布、その他の教材

科目名　クラス　講義区分	
インドネシア語Ⅳａ　＜秋＞	
由　比　邦　子	１単位

【講義概要】
インドネシア語で書かれた文章を読む作業が中心となる。また、日記や感想文など、簡単な文章を作成してみる。

【学習目標】
今まで習得した諸要素をフルに活用して、インドネシア語を完璧に身につけよう。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション～インドネシア語で書かれた文章を読むために
第２回　短文の講読（１）
第３回　短文の講読（２）
第４回　ある程度まとまった文章の講読（１）
第５回　ある程度まとまった文章の講読（２）
第６回　ある程度まとまった文章の講読（３）
第７回　中間試験（読解、作文を中心に）
第８回　「くまのプーさん」の講読（１）
第９回　「くまのプーさん」の講読（２）
第10回　「くまのプーさん」の講読（３）
第11回　「くまのプーさん」の講読（４）
第12回　「くまのプーさん」の講読（５）
第13回　「くまのプーさん」の講読（６）
第14回　ポップ・インドネシアを聴く
第15回　期末試験

【成績評価の方法】
期末試験50％、中間試験30％、出席20％

【参考文献】
授業時に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
インドネシア語Ⅳｂ　＜秋＞	
Hariadi　Pamungkas	１単位

【講義概要】
インドネシア語の語彙・発音・基本表現・基本文法などをしっかり理解し、自由に会話のなかで使う。と同時に基礎から正しいインドネシア語の書き言葉を学ぶ。インドネシア語の言葉を通じて、インドネシアの事情を知り、インドネシア人の考え方・文化・生活習慣などを理解する。

【学習目標】
学習の目標は前回習った語彙・基本表現・基本文法などをさらに正しく正確に使うことである。その他に、ネーティブスピーカーのようにより自然なインドネシア語の表現を練習する。そのために、言葉の活用だけではなく、文章と会話のなかで色々な語彙・表現・文法の組み合わせを使ってみる。授業のなかで、個人の積極的な参加が求められ、色々な課題やグループワークなどを設ける。春学期と比べて、グループワークの頻度が多くなる。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、春学期の復習
第２回　接続詞
第３回　言い回し（１）
第４回　言い回し（２）
第５回　クッション言葉
第６回　ber-動詞
第７回　me-動詞（１）
第８回　me-動詞（２）
第９回　中間試験
第10回　スラング（１）
第11回　スラング（２）
第12回　新聞記事の読み方
第13回　プロジェクトワーク
第14回　プロジェクトワーク

【成績評価の方法】
試験　40％　出席　30％
学習態度・チームワーク：30％

【教科書】
プリント配布、その他の教材

科目名　クラス　講義区分	
英語Ⅴ（上級）－ TOEIC Ⅰ　＜通期＞	
村　瀬　寿　代	2単位

【講義概要】
TOEICテストのスコアアップを目指すとともに、英語力をつけるための講座である。テキストを中心に授業をすすめるが、参加型の授業であり、ほぼ英語で質問、解説をする。前半はTOEICによく出題される文法や表現に焦点を当て、英語を聞いて即座に判断できる力を養う。また、特に後半はハンドアウトを適宜配布し、問題量をこなし、難解な問題にも対処できるようにすることでスコアアップを目指す。もちろん、講義に参加するだけではスコアアップは困難であり、自宅での学習は欠かせない。英語力をつけたい、TOEICスコアを上げたいと考えている学生は、1年間、本気で取り組むことを期待している。毎回の復習は必要であり、課題も多いが、やる気のある学生は学年・学部を問わず、是非挑戦してほしい。

【学習目標】
TOEICスコア600点を目指す。すでに600点を取得している学生は少なくとも100点アップを目指す。

【講義計画】
第1回　PART 1：Photos　PART 5：Word Choice: Nouns
第2回　PART 2：Statements　PART 6：Number, Part of Speech
第3回　PART 3：Occupations　PART 7：Advertisements
第4回　PART 4：Advertisements　PART 5：Word Choice: Verbs
第5回　PART 2：Who　PART 6：Pronoun, Verb Tense
第6回　PART 3：Activities　PART 7：Forms
第7回　PART 4：Weather　PART 5：Word Choice: Adjectives
第8回　PART 2：What　PART 6：The Simple Present, The Present Continuous
第9回　PART 3：Time　PART 7：Letters, E-mails, Faxes, and Memos
第10回　PART 4：News　PART 5：Word Choice: Adverbs
第11回　PART 2：When　PART 6：The Present Perfect, The Present Perfect Continuous, The Simple Past
第12回　PART 4：Recorded Announcements　PART 7：Tables, Indexes, and Charts
第13回　PART 2：Where　PART 5：Word Choice: Conjunctions, Prepositions
第14回　Practice Test One　前半
第15回　Practice Test One　後半
第16回　PART 2：Why　PART 5：Word Form: Nouns
第17回　PART 3：Locations　PART 6：The Past Continuous, The Past Perfect
第18回　PART 4：Special Announcements　PART 7：Instructions and Notices
第19回　PART 2：How　PART 5：Word Form: Verbs
第20回　PART 3：Reasons　PART 6：The Simple Future, The Future Perfect
第21回　PART 4：Business Announcements　PART 7：Review Part 7
第22回　PART 2：Auxiliaries　PART 5：Word Form: Adjectives
第23回　PART 3：Review: Part 3 前半　PART 6：Modal Auxiliaries, Review: Verbs and Reference
第24回　PART 4：Review: Part 4 前半　PART 5：Word Form: Adverbs
第25回　PART 2：Review: Part 2　PART 6：Modifiers
第26回　PART 3：Review: Part 3 後半　PART 5：Word Form: Pronouns
第27回　PART 4：Review: Part 4 後半　PART 6：Modifiers and Reference, Review: Part 6
第28回　LISTENING COMPREHENSION REVIEW　PART 5：Review: Part 5
第29回　Practice Test Two　前半　READIG REVIEW
第30回　Practice Test Two　後半

【成績評価の方法】
試験　80%　出席　20%
TOEIC公開テスト及びIPテストのスコア80%、出席と小テスト20%
学期末試験は特に行わない。スコアの結果は必ず提出すること。

【教科書】
Lin Lougheed ロングマンTOEICテスト完全オーディオパック　700点クリアコース PEARSON Longman
Intermediate Level CD7枚付　¥5,439

【参考文献】
適宜指示する。

科目名　クラス　講義区分	
英語Ⅴ（上級）－ TOEIC Ⅱ　＜通期＞	
村　瀬　寿　代	２単位

【講義概要】
TOEICテストのスコアアップを目指すとともに、英語力をつけるための講座である。テキストを中心に授業をすすめるが、参加型の授業であり、ほぼ英語で質問、解説をする。前半はTOEICによく出題される文法や表現に焦点を当て、英語を聞いて即座に判断できる力を養う。また、特に後半はハンドアウトを適宜配布し、問題量をこなし、難解な問題にも対処できるようにすることでスコアアップを目指す。もちろん、講義に参加するだけではスコアアップは困難であり、自宅での学習は欠かせない。英語力をつけたい、TOEICスコアを上げたいと考えている学生は、１年間、本気で取り組むことを期待している。毎回の復習は必要であり、課題も多いが、やる気のある学生は学年・学部を問わず、是非挑戦してほしい。

【学習目標】
TOEICスコア600点を目指す。すでに600点を取得している学生は少なくとも100点アップを目指す。

【講義計画】
第１回　PART １: Photos　PART ５: Word Choice: Nouns
第２回　PART ２: Statements　PART ６: Number, Part of Speech
第３回　PART ３: Occupations　PART ７: Advertisements
第４回　PART ４: Advertisements　PART ５: Word Choice: Verbs
第５回　PART ２: Who　PART ６: Pronoun, Verb Tense
第６回　PART ３: Activities　PART ７: Forms
第７回　PART ４: Weather　PART ５: Word Choice: Adjectives
第８回　PART ２: What　PART ６: The Simple Present, The Present Continuous
第９回　PART ３: Time　PART ７: Letters, E-mails, Faxes, and Memos
第10回　PART ４: News　PART ５: Word Choice: Adverbs
第11回　PART ２: When　PART ６: The Present Perfect, The Present Perfect Continuous, The Simple Past
第12回　PART ４: Recorded Announcements　PART ７: Tables, Indexes, and Charts
第13回　PART ２: Where　PART ５: Word Choice: Conjunctions, Prepositions
第14回　Practice Test One　前半
第15回　Practice Test One　後半
第16回　PART ２: Why　PART ５: Word Form: Nouns
第17回　PART ３: Locations　PART ６: The Past Continuous, The Past Perfect
第18回　PART ４: Special Announcements　PART ７: Instructions and Notices
第19回　PART ２: How　PART ５: Word Form: Verbs
第20回　PART ３: Reasons　PART ６: The Simple Future, The Future Perfect
第21回　PART ４: Business Announcements　PART ７: Review Part ７
第22回　PART ２: Auxiliaries　PART ５: Word Form: Adjectives
第23回　PART ３: Review: Part ３ 前半　PART ６: Modal Auxiliaries, Review: Verbs and Reference
第24回　PART ４: Review: Part ４ 前半　PART ５: Word Form: Adverbs
第25回　PART ２: Review: Part ２　PART ６: Modifiers
第26回　PART ３: Review: Part ３ 後半　PART ５: Word Form: Pronouns
第27回　PART ４: Review: Part ４ 後半　PART ６: Modifiers and Reference, Review: Part ６
第28回　LISTENING COMPREHENSION REVIEW　PART ５: Review: Part ５
第29回　Practice Test Two　前半　READIG REVIEW
第30回　Practice Test Two　後半

【成績評価の方法】
試験　80%　出席　20%
TOEIC公開テスト及びIPテストのスコア80%、出席と小テスト20%
学期末試験は特に行わない。スコアの結果は必ず提出すること。

【教科書】
Lin Lougheed ロングマンTOEICテスト完全オーディオパック　700点クリアコース PEARSON Longman
TOEIC公開テスト及びIPテストのスコア80%、出席と小テスト20%
学期末試験は特に行わない。スコアの結果は必ず提出すること。

【参考文献】
適宜指示する。

科目名　クラス　講義区分	
英語Ⅴ（上級）－日本事情入門　＜通期＞	
David T.　Van Ham	2単位

【講義概要】
In this class we'll consider the influences of the early masters of Japanese film and consider how accurately they portrayed the values of the society portrayed in their work against our own perceptions of what we know and have experienced living in Japan?

【学習目標】
Allow students to experience the cultural richness of Japanese film and discover how they feel the films relate to the realities of Japanese society today.

【講義計画】
第1回　24 Eyes Part 1
第2回　24 Eyes Part 2
第3回　Tokyo Story Part 1
第4回　Tokyo Story Part 2
第5回　Seven Samurai Part 1
第6回　Seven Samurai Part 2
第7回　Harp of Burma Part 1
第8回　Harp of Burma Part 2
第9回　Sansho the Bailiff Part 1
第10回　Sansho the Bailiff Part 2
第11回　Crazed Fruit
第12回　Woman in the Dunes Part 1
第13回　Woman in the Dunes Part 2
第14回　Rashomon
第16回　Ballad of Narayama Part 1
第17回　Ballad of Narayama Part 2
第18回　Tampopo Part 1
第19回　Tampopo Part 2
第20回　Shall We Dance Part 1
第21回　Shall We Dance Part 2
第22回　Battles with Honor and Humanity
第23回　Sonatine
第24回　Mimbo no Onna Part 1
第25回　Mimbo no Onna Part 2
第26回　Zatoichi Part 1
第27回　Zatoichi Part 2
第28回　Twilight Samurai Part 1
第29回　Twilight Samurai Part 2

【成績評価の方法】
レポート　100%
Students will be expected to view all films and will write four reaction papers from films of their choice.

【教科書】
No textbook needed.

【備考】
英語による講義です。

科目名　クラス　講義区分	
英語Ⅴ（上級）－日本事情Ⅰ　＜通期＞	
Warren　Decker	2単位

【講義概要】
JAPANESE SHORT STORIES

Overview:
In this course we will read and discuss a wide variety of Japanese short stories. Students are welcome to read the stories in either English or Japanese, but the discussions will be conducted almost entirely in English.

【学習目標】
Class Description:

After a brief biographical introduction to the authors, we will consider each story as a work of literature and look for its artistic value. We will then broaden our discussions to examine what the stories can tell us about Japanese culture. Finally, we will contemplate how these stories relate to our personal experiences of contemporary Japan.

Most weeks we will read and discuss two stories, one chosen by me and another chosen by students. Students will be responsible for leading the discussion about the story they choose.

The following outline is an example of the range of stories that we will read in this class.

【講義計画】
第1回　Haruki Murakami- TV People
第2回　Banana Yoshimoto- Newlywed
第3回　Eri Makino- Sproing
第4回　Ryunosuke Akutagawa- In a Grove
第5回　Yasunari Kawabata- The Izu Dancer
第6回　Naoya Shiga- Seibei's Gourds
第7回　Shusaku Endo- Unzen
第8回　Yasushi Inoue- Passage to Fudaraku
第9回　Mishima Yukio- The Priest and His Love
第10回　Atsushi Nakajima- The Expert
第11回　Kenji Miyazawa- The Bears of Nametoko
第12回　Ango Sakaguchi- In the Forest, Under Cherries, in Full Bloom
第13回　Lafcadio Hearn- The Story of Mimi Nashi-Hoichi
第14回　Kobo Abe- The Bet
第15回　Conclusion

【成績評価の方法】
レポート　60%　出席　40%
Grading and Expectations:

As a student in this course, your grade will be based on the following:

-reading two short stories per week, (usually from ten to twenty pages)

-attending each class and actively participating in class discussions

-writing a short response to each of the stories read in class

-writing a creative short story of your own

【教科書】
No textbook is required. I will provide copies of the stories.

【備考】
I'm looking forward to meeting you all! I hope we can have a wide variety of people in this class to generate interesting discussions.

Japanese literature is wonderful, please join us!
英語による講義です。

科目名　クラス　講義区分	
英語Ⅴ（上級）－日本事情Ⅱ　＜通期＞	
Irene Iwasaki	2単位

【講義概要】
This class will be conducted in English and discuss themes of gender in Japanese society. This may include the need to reflect and share information on gender issues from other countries. The purpose of this course is to foster understanding and awareness about issues of gender in Japanese society and other societies as well. Students will be required to write one in-class essay and prepare one presentation each semester. Active attention and participation is required during each lesson.

【学習目標】
Advanced
- ■Listening : Can understand most conversation spoken at a natural pace and understand the general meaning of short media reports.
- ■Reading : Can read short articles and short essays with minimal use of a dictionary.
- ■Spoken Interaction : Can share information about one's home country and give personal opinions on various topics. Can participate in group discussions with little anxiety.
- ■Spoken Production : Can make a short (5 minute) oral presentation. Can facilitate discussion on a prepared topic.
- ■Writing : Can write a five-paragraph essay. Can conduct an outside interview/questionnaire and present it in written form (either in English or translated into English)

【講義計画】
第１回　Introductions: gender issues and your home country
第２回　What is a stereotype? Sexism? Feminism?
第３回　Gender and language
第４回　Women and ideals of beauty: empowerment or disempowerment?
第５回　The ikemen: ideals of modern men and masculinity
第６回　Media and pop media: fighting or perpetuating discrimination?
第７回　Essay writing skills
第８回　Midterm: in-class essay (10%)
第９回　The salaryman
第10回　Working women
第11回　Women and mizushobai
第12回　The male host: reverse sexism or a sign of gender equalization?
第13回　Presentation skill
第14回　Final: student presentations (20%)
第15回　Making and conducting an interview/questionnaire skills
第16回　Gender and sexuality
第17回　Gender roles: societal expectations of boys and girls
第18回　Gender roles: societal expectations of men and women
第19回　Marriage: statistics, spousal roles and expectations
第20回　The Japanese family and household
第21回　Child rearing
第22回　Gender and education
第23回　Gender and education
第24回　Midterm: in-class essay (10%)
第25回　Aging men and women; health issues of men and women in Japan
第26回　The experiences of minority, immigrant and foreign men and women in Japan
第27回　Final reflection
第28回　Final: student presentations of interview/questionnaire results (20%)

【成績評価の方法】
Spring Semester Evaluation:
Mid-term essay: 10%
Written and oral presentation of report: 20%
Attendance: 20%

Autumn Semester Evaluation
Mid-term essay : 10%
Written and oral report of interview/questionnaire: 20%
Attendance: 20%

Evaluation Method : Students will be evaluated on their ability to communicate their thoughts and opinions (in both written and spoken form) on various topics throughout each semester. Active attention and participation is required during each lesson. Short essay writing and short presentation skills will be evaluated.

【教科書】
No textbook required.

【参考文献】
Instructor will research, reference and prepare readings for each week.

【備考】
英語による講義です。

科目名　クラス　講義区分	
英語Ⅴ（上級）－比較文化　＜通期＞	
Terence J. O'Brien	２単位

【講義概要】
The teacher and students will share their own experiences regarding culture.

【学習目標】
In the first semester I will compare Japan with Britain. I will show some interesting aspects of buildings both in engineering and in their usages. In the second semester I will talk about modern developments that changed our societies.

【講義計画】
第１回　Introductions
第２回　Expectations
第３回　Comparing countries
第４回　Presentation
第５回　Education
第６回　Presentation
第７回　Difficulties
第８回　Castles
第９回　Churches
第10回　Churches
第11回　Houses
第12回　Houses
第13回　Houses
第14回　Presentation
第15回　Summary
第16回　Introductions
第17回　Changes
第18回　Ideas to take home
第19回　Machines
第20回　Industrial revolution
第21回　Transport
第22回　Presentation
第23回　Social changes
第24回　Presentation
第25回　Art
第26回　Youth culture
第27回　Youth culture
第28回　Music
第29回　Time
第30回　Summary

【成績評価の方法】
Students need to have good attendance, good participation in class and to complete one paper.

【備考】
英語による講義です。

科目名　クラス　講義区分	
英語科教育法Ⅰ　＜通期＞	
島　田　勝　正	４単位

【講義概要】
英語科教育の基礎理論を概観するとともに、その理論の教育実践への適用を考察する。授業内容は第二言語習得論、英語教育目標論、教育課程論（カリキュラム論、シラバス論、授業計画）、指導方法論、指導技術論（４技能、文法、語彙）教材論、測定評価論、学習者論、教師論と多岐にわたる。単に理論の紹介に終始せず明日の教育実践を射程に入れたワークショップを展開する。その体験は授業案作成、マイクロティーチングとして具現化される。講義においては、常に中学校および高等学校学習指導要領に言及し、その理解を図る。

【学習目標】
受講者は学習の促進としての指導は如何にあるべきかを探求することになる。本講義を通して中学校、高等学校、大学等で経験した英語教育や英語学習を基盤にして作り上げた「思い込み（belief）」を見直し、望ましい英語授業のあり方を自己評価、自己点検ができるようになる。

【講義計画】
第１回　１.ガイダンス
第２回　２.指導・学習・評価（指導の役割）
第３回　３.第二言語習得論１（習慣形成理論と創造的構築）
第４回　４.第二言語習得論２（学習転移）
第５回　５.誤答分析
第６回　６.第二言語習得論３（インプット仮説）
第７回　７. TPR
第８回　８. 誤答への対応
第９回　９. 文法指導１（気づき活動）
第10回　10.文法指導２（教材作成）
第11回　11.目標論１（コミュニケーション能力）
第12回　12.目標論２（中学校学習指導要領）
第13回　13.目標論３（高等学校学習指導要領）
第14回　14.コミュニケーション方略
第15回　15.試験
第16回　１.コミュニカティブアプローチ１（カリキュラム論、シラバス論）
第17回　２.コミュニカティブアプローチ２（文機能分析）
第18回　３.コミュニカティブアプローチ３（教授法）
第19回　４.スピーキング（教材評価）
第20回　５.リスニング（背景知識の活性化）
第21回　６.リーディング（発問の種類と方法）
第22回　７.ライティング（フィードバック）
第23回　８.語彙（記憶術）
第24回　９.授業案作成
第25回　10.授業観察、授業分析
第26回　11.観点別評価と評定（規準と基準）
第27回　12.テスティング１（妥当性、信頼性，実用性）
第28回　13.テスティング２（項目改善）
第29回　14.テスティング３（項目分析）
第30回　15.試験

【成績評価の方法】
課題提出（36%）、レポート（24%）、定期試験（40%）の合算点を基本とし、複数回行う英語学力テスト（小テスト）の結果を勘案して、総合的に判断する。各学期、２回を超えて欠席した場合、出席不足（X:無評価）として処理する。

【参考文献】
１．白畑他（著）2000『英語教育用語辞典』大修館書店
２．Richards, J., and Schmidt, R. (eds.) 2002 . Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics, Third Edition. Longman.
３．青木（編）1990, 1994『英語授業実例事典 I, II』大修館書店
４．青木（編著）1990『英語授業の組立て』開隆堂
５．山田、望月（編）1996『私の英語授業』大修館書店

科目名　クラス　講義区分	
英語科教育法Ⅱ　＜通期＞	
島　田　勝　正	４単位

【講義概要】
本講義は、英語教員養成カリキュラム上、「英語科教育法Ⅰ」と「教育実習　Ⅰ，Ⅱ」との橋渡しとして位置づけられる。したがって、すべての授業は、「教育実習」を射程に入れたワークショップである。具体的には、授業研究（授業案作成－授業提案－授業観察－授業分析－授業案改善－授業再提案の過程を経る）を通して、英語授業の構成能力を錬磨する。講義では、常に中学校および高等学校学習指導要領に言及し、その理解を図る。授業研究では、グループで授業案を作成し、授業提案を行い、他の受講生からフィードバックを得て、修正案を考える。

【学習目標】
「英語科教育法　Ⅰ」で得た知見を基盤に、英語科の指導と評価の理論をより深く理解し、授業の実践力を練磨する。

【講義計画】
第１回　１.ガイダンス
第２回　２.授業案の書き方
第３回　３.授業案の作成（１）
第４回　４.文法を中心とした授業研究（１）
第５回　５.スピーキングを中心とした授業研究（１）
第６回　６.リスニングを中心とした授業研究（１）
第７回　７.ライティングを中心とした授業研究（１）
第８回　８.リーディングを中心とした授業研究（１）
第９回　９.授業案（修正案）の作成（１）
第10回　10.文法を中心とした授業提研究（２）
第11回　11.スピーキングを中心とした授業研究（２）
第12回　12.リスニングを中心とした授業研究（２）
第13回　13.ライティングを中心とした授業研究（２）
第14回　14.リーディングを中心とした授業研究（２）
第15回　15.試験
第16回　１.授業案の作成（２）
第17回　２.文法を中心とした授業研究（３）
第18回　３.スピーキングを中心とした授業研究（３）
第19回　４.リスニングを中心とした授業研究（３）
第20回　５.ライティングを中心とした授業研究（３）
第21回　６.リーディングを中心とした授業研究（３）
第22回　７.授業案（修正案）の作成（２）
第23回　８.文法を中心とした授業研究（４）
第24回　９.スピーキングを中心とした授業研究（４）
第25回　10.リスニングを中心とした授業研究（４）
第26回　11.ライティングを中心とした授業研究（４）
第27回　12.リーディングを中心とした授業研究（４）
第28回　13.テストの作成（１）
第29回　14.テストの作成（２）
第30回　15.試験

【成績評価の方法】
授業参加（42%）、授業提案（30%）、テストまたはレポート（28%）の合算点を基本とし、複数回実施する英語学力テスト（小テスト）を勘案して、総合的に判断する。各学期、２回を超えて欠席した場合、出席不足（X:無評価）として処理する。

【参考文献】

１．白畑他（著）2000『英語教育用語辞典』大修館書店
２．Richards, J., and Schmidt, R. (eds.) 2002 . Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics, Third Edition. Longman.
３．青木（編）1990, 1994『英語授業実例事典　Ⅰ，Ⅱ』大修館書店
４．青木（編著）1990『英語授業の組立て』開隆堂
５．山田、望月（編）1996『私の英語授業』大修館書店

科目名　クラス　講義区分	
英語学概論　01＜春集＞	
Kevin　R.　Gregg	４単位

【講義概要】
「英語学」とは、英語を対象とする言語学、つまり言語の科学である。科学だからこそ、言語学の目的は、言語現象を記述するだけではなく、その現象を説明することにある。したがって、この授業の目的は、英語に関する事実をたくさん覚えさせることでは決してない。むしろ、英語を人間言語の一例として取り上げ、言語学という科学の研究対象、基礎概念、それに研究方法を（ある程度）把握してもらうことを目指す。英語をもちろん中心とするが、日本語その他の言語のデータも紹介して、場合によっては宿題や試験問題の対象とする。

【学習目標】
受講生は、この授業で十分な成果をあげることができれば、次の目的を達成することになろう：
・人間言語とりわけ英語を科学研究の対象とする方法や特徴を（ある程度）理解する。
・英語学の下位分野（音声学、形態論、統語論など）の基礎知識を得る。
・英語の特徴をもう少し理解する

【講義計画】
第１回　科学としての言語学：記述と説明、仮説と予測、証拠と反証（弟１回～弟２回）
第２回　科学としての言語学：記述と説明、仮説と予測、証拠と反証（弟１回～弟２回）
第３回　発音のメカニズムや規則（音声学・音韻論）：調音方法、音の記述や分類、発音の変化、その変化を決める（音韻）規則（弟３回～弟10回）
第４回　発音のメカニズムや規則（音声学・音韻論）：調音方法、音の記述や分類、発音の変化、その変化を決める（音韻）規則（弟３回～弟10回）
第５回　発音のメカニズムや規則（音声学・音韻論）：調音方法、音の記述や分類、発音の変化、その変化を決める（音韻）規則（弟３回～弟10回）
第６回　発音のメカニズムや規則（音声学・音韻論）：調音方法、音の記述や分類、発音の変化、その変化を決める（音韻）規則（弟３回～弟10回）
第７回　発音のメカニズムや規則（音声学・音韻論）：調音方法、音の記述や分類、発音の変化、その変化を決める（音韻）規則（弟３回～弟10回）
第８回　発音のメカニズムや規則（音声学・音韻論）：調音方法、音の記述や分類、発音の変化、その変化を決める（音韻）規則（弟３回～弟10回）
第９回　発音のメカニズムや規則（音声学・音韻論）：調音方法、音の記述や分類、発音の変化、その変化を決める（音韻）規則（弟３回～弟10回）
第10回　発音のメカニズムや規則（音声学・音韻論）：調音方法、音の記述や分類、発音の変化、その変化を決める（音韻）規則（弟３回～弟10回）
第11回　語彙の構造（形態論）：派生と屈折、複合語（弟11回～弟14回）
第12回　語彙の構造（形態論）：派生と屈折、複合語（弟11回～弟14回）
第13回　語彙の構造（形態論）：派生と屈折、複合語（弟11回～弟14回）
第14回　語彙の構造（形態論）：派生と屈折、複合語（弟11回～弟14回）
第15回　文の構造（統語論）：範疇、構成素、項構造（弟15回～弟24回）
第16回　文の構造（統語論）：範疇、構成素、項構造（弟15回～弟24回）
第17回　文の構造（統語論）：範疇、構成素、項構造（弟15回～弟24回）
第18回　文の構造（統語論）：範疇、構成素、項構造（弟15回～弟24回）
第19回　文の構造（統語論）：範疇、構成素、項構造（弟15回～弟24回）
第20回　文の構造（統語論）：範疇、構成素、項構造（弟15回～弟24回）
第21回　文の構造（統語論）：範疇、構成素、項構造（弟15回～弟24回）

第22回　文の構造（統語論）：範疇、構成素、項構造（第15回～第24回）
第23回　文の構造（統語論）：範疇、構成素、項構造（第15回～第24回）
第24回　文の構造（統語論）：範疇、構成素、項構造（第15回～第24回）
第25回　文の解釈（語用論）：会話の規則、丁寧表現の規則（第25回～第29回）
第26回　文の解釈（語用論）：会話の規則、丁寧表現の規則（第25回～第29回）
第27回　文の解釈（語用論）：会話の規則、丁寧表現の規則（第25回～第29回）
第28回　文の解釈（語用論）：会話の規則、丁寧表現の規則（第25回～第29回）
第29回　文の解釈（語用論）：会話の規則、丁寧表現の規則（第25回～第29回）
第30回　まとめ（第30回）

【成績評価の方法】
試験　100%

【教科書】
なし

科目名　クラス　講義区分	
英語学概論　02＜秋集＞	
清　水　真　一	4単位

あ行

【講義概要】
英語は人間言語としての特性を内包する。また同時に英語という個別言語としての特性をあわせもつ。まず、人間という種のことばの基底に横たわる知識を探求する言語学の基礎概念を紹介し、また、その基本的な考え方を学ぶ。これを踏まえて、英語学の基本的下位分野の提要を提示し、英語学をことばの科学として捉える。英語のデータを中心に授業をすすめるが、それ以外の言語にも言及する場合がある。

【学習目標】
本講は、英語学の俯瞰図を提供し、学生諸君を英語学のより専門的な世界へ誘うことを第一の目標とする。概論という性格上、細かな技術的議論に触れない。各論における基本的概念の把握と、基礎データの観察に習熟することを目指すことになろう。

【講義計画】
第１回　導入 ： 英語学と言語学
第２回　音声学 ： 発音のメカニズム
第３回　音の分類
第４回　英語の音
第５回　音韻論 ： 音素
第６回　音韻素性
第７回　調音法の同化と異化
第８回　形態論 ： 形態素・接辞
第９回　派生
第10回　統語論 ： 導入
第11回　文
第12回　階層性
第13回　単位・「かたまり」
第14回　句構造
第15回　主題役割
第16回　格
第17回　構成素統御
第18回　意味論 ： 導入
第19回　述語
第20回　修飾
第21回　指示
第22回　語用論 ： 導入
第23回　ディスコースと会話
第24回　推意
第25回　前提
第26回　英語学と隣接分野（１）
第27回　英語学と隣接分野（２）
第28回　英語学と隣接分野（３）

【成績評価の方法】
試験　40%　出席　30%
（注）小テスト［30%］をも合わせて総合的に評価する。

【教科書】
プリントを配布する。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

科目名　クラス　講義区分	
英語の意味　＜通期＞	
西　岡　武　彦	4単位

【講義概要】
中右実氏の『認知意味論の原理』は、四半世紀を経た今日でさえ英語の意味に迫る極めて有効かつ興味深い内容であり、本講座担当者は今なお最初に読んだときの興奮を忘れられない。この講座では英語の意味を探る上で格好の素材である中右氏の考えをベースに授業を展開していく。

【学習目標】
単純な英文でさえこれほど多角的な見方ができるものだという点を痛切に感じることを目標にしたい。

【講義計画】
第１回　階層意味論の見取り図（１）
第２回　階層意味論の見取り図（２）
第３回　Ｄモダリティとしての接続詞（１）
第４回　Ｄモダリティとしての接続詞（２）
第５回　Ｄモダリティの指標（１）
第６回　Ｄモダリティの指標（２）
第７回　平叙文と陳述のモダリティ（１）
第８回　平叙文と陳述のモダリティ（２）
第９回　Ｓモダリティの意味と形（１）
第10回　Ｓモダリティの意味と形（２）
第11回　発話行為論とモダリティの接点（１）
第12回　発話行為論とモダリティの接点（２）
第13回　IT分裂文と階層構造（１）
第14回　IT分裂文と階層構造（２）
第15回　IT分裂文の焦点とモダリティ（１）
第16回　IT分裂文の焦点とモダリティ（２）
第17回　文代用の仕組み（１）
第18回　文代用の仕組み（２）
第19回　否定の文化論的視座（１）
第20回　否定の文化論的視座（２）
第21回　文法関係と意味役割（１）
第22回　文法関係と意味役割（２）
第23回　状態と非状態を分ける（１）
第24回　状態と非状態を分ける（２）
第25回　動作主と行為者（１）
第26回　動作主と行為者（２）
第27回　もはや行為受身はない（１）
第28回　もはや行為受身はない（２）
第29回　動作主と経験者（１）
第30回　動作主と経験者（２）

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%

【参考文献】
『認知意味論の原理』中右　実　大修館書店

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
英語の音声　＜秋集＞	
南　條　健　助	4単位

【講義概要】
この授業では、標準的なアメリカ英語またはイギリス英語の音声を研究し、英語音声学の基本的な理論を学んでもらうと同時に、実際に英語の音声を正しく聞き取り、自分でも正確な発音ができるようになるための実践的な訓練を行なう。
音声学（phonetics）とは、音声を科学的に研究する言語科学（linguistic sciences）の一分野であり、同時に、あらゆる音声を正確に聞き分け、かつ発音し分けることができる、いわば職人芸（art）でもある。また、イギリス学派音声学（British school of phonetics）では、音韻論（phonology）も音声学の一部であると見做される。
この授業では、イギリス学派の伝統である実践音声学（practical phonetics）というやり方によって、標準的なアメリカ英語またはイギリス英語の音声を、主として調音（articulation）の面から研究する。実践音声学の手法を用いるためには、まず初めに、たとえ日本人であっても、英米人と区別がつかないくらい、英米人そっくりの発音ができる技能を身につけなければならない。授業では、どうすればそういう発音ができるようになるのかを詳しく解説し、そのための音声学訓練（phonetic training）に多くの時間を割くつもりである。また、そのような訓練と並行して、毎回少しずつ音声の理論と英語の音声事実を勉強してゆくことにしたい。
なお、今年度は標準的なアメリカ英語とイギリス英語のどちらを中心に学ぶかについては、第１回の授業で説明する。

【学習目標】
この授業では、標準的なアメリカ英語またはイギリス英語の音声を研究し、英語音声学の基本的な理論を学ぶと同時に、実際に英語の音声を正しく聞き取り、自分でも正確な発音ができるようになることを目標とする。

【講義計画】
第１回　入門編（１）
第２回　入門編（２）
第３回　入門編（３）
第４回　強勢とリズム（１）
第５回　強勢とリズム（２）
第６回　強勢とリズム（３）
第７回　強勢とリズム（４）
第８回　音調（１）
第９回　音調（２）
第10回　音調（３）
第11回　音調（４）
第12回　音のつながりと音変化（１）
第13回　音のつながりと音変化（２）
第14回　音のつながりと音変化（３）
第15回　音のつながりと音変化（４）
第16回　子音（１）
第17回　子音（２）
第18回　子音（３）
第19回　子音（４）
第20回　子音（５）
第21回　母音（１）
第22回　母音（２）
第23回　母音（３）
第24回　母音（４）
第25回　母音（５）
第26回　発展編（１）
第27回　発展編（２）
第28回　発展編（３）

【成績評価の方法】
成績は、原則として学期末試験の点数のみに基づいて決定する。試験では、欠かさず授業に出席して、きちんとノートを取っていなければ解答できない問題を出題する。また、８回以上欠席した者には、試験の点数にかかわらず、単位は与えられない。授業中、私語をする学生には即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。

【教科書】
開講時までに指定する。
なお、補助教材として、必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】
授業中に紹介する。

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
英語の文法　＜春集＞	
清　水　真　一	4単位

【講義概要】
本講の目標は、英文法の基本をおさめ、英語の統語論研究への橋渡しをすることにある。そのため、英語の構文の整理にまず着手する。しかるのち、統語論研究を目指すものにとって、それを可能にするに足りる基礎を提供することもその射程に入っている。従って、実用的な英語の文法の知識の整理・定着に加え、理論的な考察・思索も求められることなろう。また、将来教職を目指す受講生にとって、英文法における潜在的な問題の所在とそれらに対する論証的な説明の有り様をも学ぶ機会となればとも願っている。

【学習目標】
品詞・構文に基づいて英語のデータの観察・整理をおこなう。また、これまでの統語論研究によって得られた分析の道具を提供する。しかるのち、整理したデータの分析を試み、受講生諸君が英語とその文法をさらに研究し続ける契機たりうるような講義を目指したい。

【講義計画】
第１回　導入 ： 英語学習と英語の文法
第２回　品詞論
第３回　主部と述部
第４回　名詞と名詞句　（１）
第５回　名詞と名詞句　（２）
第６回　形容詞　（１）
第７回　形容詞　（２）
第８回　動詞と動詞句
第９回　動詞の型　（１）
第10回　動詞の型　（２）
第11回　動詞の型　（３）
第12回　「文法」についてのいくつかの考え方
第13回　「文」の捉え方
第14回　構造について
第15回　統語範疇
第16回　構成素構造
第17回　述語と項
第18回　句の構造　（１）
第19回　句の構造　（２）
第20回　平叙文　（１）
第21回　平叙文　（２）
第22回　平叙文　（３）
第23回　疑問文　（１）
第24回　疑問文　（２）
第25回　疑問文　（３）
第26回　命令文　（１）
第27回　命令文　（２）
第28回　まとめ ：「英語の文法」研究の意義について

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　30%
（注）小テスト［20%］をも合わせて総合的に評価する。

【教科書】
プリントを配布する。

【参考文献】
授業で適宜指示する。

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
英語の歴史　＜秋集＞	
野　原　康　弘	4単位

【講義概要】
イギリス各地を旅してまわると、いろいろな場所で、アングロ・サクソン以外の民族が残したものを見ることが出来る。南西部のソールズベリー平原には、「ストーンヘンジ」が今でも謎のまま残されている。ケルト民族伝説のアーサー王の城だったと言われているものはあちこちに存在している。イングランド北部を横断している「ハドリアヌスの防壁」は、約２千年前のローマ人のブリテン島支配を今なお見せ付けている。イングランド東部の海岸は「サクソン海岸」と呼ばれ、ゲルマン民族の侵略と征服を今に伝えている。イングランド北部の「リンディスファーンの破壊された修道院」は、ヴァイキング侵略の激しさを物語っている。おびただしい数の「フランス語からの借用」は、1066年から約300年間、フランス語を話すノルマン人たちのイングランド征服を知らしめている。
このような外的な歴史の変化にともなって、英語という言語がブリテン島にもたらされ、それ自体も大きく変化してきたのである。この講義では、「英語」という言語が外的な歴史と関連して、「英語」自体の内的な歴史をどのように展開してきたかを学んでいくことになる。

【学習目標】
英語とヨーロッパの諸言語の関係を理解すること。
ブリテン島におけるさまざまな民族と言語の関係を理解すること。
英語がどのようにして誕生し、発展したかを理解すること。
フランス語の影響について考えること。
英語の統語法などを歴史的に考察すること。

【講義計画】
第１回　授業全体について詳しく説明します。
（講義の順番は変更する場合があります）
第２回　インド・ヨーロッパ祖語
第３回　英語の祖先語
第４回　ケルト民族の遺産
第５回　ローマ人のブリテン島征服
第６回　ローマ人の影響
第７回　ゲルマン人のブリテン島征服
第８回　英語の始まり
第９回　古英語（１）
第10回　古英語（２）
第11回　キリスト教の影響
第12回　ヴァイキングによる侵略
第13回　古ノルド語の影響
第14回　アルフレッド大王の功績
第15回　ノルマン人による征服
第16回　ノルマン人とフランス語
第17回　中英語（１）
第18回　中英語（２）
第19回　Chaucer の英語
第20回　英語の復活
第21回　近代英語の始まり
第22回　Shakespeare の英語
第23回　聖書の英語
第24回　英語の辞書
第25回　語形成
第26回　他の言語からの借用
第27回　意味の変化
第28回　統語法の変化
第29回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%
出席を重視（20回以上出席のこと）。

＊第１回目の講義で詳しく説明します。

【教科書】
ヘルベルト・コツィオル 英語史入門 南雲堂

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
英語留学準備講座－ TOEFL　1Ａ　＜春＞	
柳　本　麻　美	1単位

【講義概要】
半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。英語留学準備講座TOEFL-２を合わせて受講することが非常に望ましい。　主にリーディングとライティングを中心に、比較的易しいテキストでTOEFL iBTで必要な基本スキルの習得を目指す。また、TOEFL iBTに加え、適宜、IPT対策を行う。留学した際、必要となるリーディング力、ライティング力を身につけるためには、講義に参加するだけでは十分とはいえない。課題も多く、自宅での学習も相当量必要となるので、勉強を本気でやるという覚悟を持って積極的に授業に参加すること。

【学習目標】
TOEFL ITP 450点（TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　READING SKILL 1
第３回　READING SKILL 2
第４回　READING SKILL 3　　WRINTNG PRE-TES
第５回　READING SKILL 4　　WRINTNG SKILL 1,2
第６回　READING SKILL 5　　WRINTNG SKILL 3,4
第７回　READING SKILL 6　　WRINTNG SKILL 5,6
第８回　READING SKILL 7　　WRINTNG SKILL 7,8
第９回　READING POST TEST　　WRINTNG SKILL 9
第10回　READING MINI-TEST 1　　WRINTNG SKILL 10
第11回　READING MINI-TEST 2　　WRINTNG SKILL 11
第12回　READING MINI-TEST 3　　WRINTNG SKILL 12
第13回　READING MINI-TEST 4　　WRINTNG SKILL 13
第14回　READING COMPLETE-TEST　　WRINTNG SKILL 14
第15回　学期末試験

【成績評価の方法】
試験　50％
学期末テスト（50％)、 TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断する（開講時に詳細のプリントを配布）

【教科書】
Deborah Phillips LONGMAN Introductory Course for the TOEFL TEST iBT PEARSON Longman
テキストはCD ROMとアンサーキー付
その他ハンドアウトを配布する

【参考文献】
適宜、指示する。

【備考】
＜04～07生＞の【全学部・全学科】履修可、
＜08～09生＞の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
＜08生＞の【国際教養学部　各専修生】
（但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3Ａ～6Ｂクラスに応募する事）

科目名　クラス　講義区分	
英語留学準備講座－ TOEFL　1Ｂ　＜秋＞	
柳　本　麻　美	1単位

【講義概要】
半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。英語留学準備講座TOEFL-２を合わせて受講することが非常に望ましい。　主にリーディングとライティングを中心に、比較的易しいテキストでTOEFL iBTで必要な基本スキルの習得を目指す。また、TOEFL iBTに加え、適宜、IPT対策を行う。留学した際、必要となるリーディング力、ライティング力を身につけるためには、講義に参加するだけでは十分とはいえない。課題も多く、自宅での学習も相当量必要となるので、勉強を本気でやるという覚悟を持って積極的に授業に参加すること。

【学習目標】
TOEFL ITP 450点（TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　READING SKILL 1
第３回　READING SKILL 2
第４回　READING SKILL 3　　WRINTNG PRE-TEST
第５回　READING SKILL 4　　WRINTNG SKILL 1,2
第６回　READING SKILL 5　　WRINTNG SKILL 3,4
第７回　READING SKILL 6　　WRINTNG SKILL 5,6
第８回　READING SKILL 7　　WRINTNG SKILL 7,8
第９回　READING POST-TEST　　WRINTNG SKILL 9
第10回　READING MINI-TEST 1　WRINTNG SKILL 10
第11回　READING MINI-TEST 2　WRINTNG SKILL 11
第12回　READING MINI-TEST 3　WRINTNG SKILL 12
第13回　READING MINI-TEST 4　WRINTNG SKILL 13
第14回　READING COMPLETE-TEST　WRINTNG SKILL 14
第15回　学期末試験

【成績評価の方法】
試験　50％
学期末テスト（50％)、 TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断する。（開講時に詳細のプリントを配布する）

【教科書】
Deborah Phillips LONGMAN Introductory Course for the TOEFL TEST iBT PEARSON Longman
テキストはCD ROMとアンサーキー付
その他ハンドアウトを配布する。

【参考文献】
適宜、指示する。

【備考】
＜04～07生＞の【全学部・全学科】履修可、
＜08～09生＞の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
＜08生＞の【国際教養学部　各専修生】
（但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3Ａ～6Ｂクラスに応募する事）

科目名　クラス　講義区分	
英語留学準備講座－ TOEFL　２A　＜春＞	
柳　本　麻　美	１単位

【講義概要】
半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。英語留学準備講座TOEFL-１を合わせて受講することが非常に望ましい。　主にリスニングとスピーキングを中心に、比較的易しいテキストでTOEFL iBTで必要な基本スキルの習得を目指す。また、TOEFL iBTに加え、適宜、IPT対策を行う。留学した際、必要となるリスニングとスピーキング力を身につけるためには、講義に参加するだけでは十分とはいえない。課題も多く、自宅での学習も相当量必要となるので、勉強を本気でやるという覚悟を持って積極的に授業に参加すること。

【学習目標】
TOEFL ITP 450点（TOEFL iBT 45点）、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　LISTENING SKILL 1
第３回　LISTENING SKILL 2
第４回　LISTENING SKILL 3
第５回　LISTENING SKILL 4　　SPEAKING PRE-TEST
第６回　LISTENING SKILL 5　　SPEAKING SKILL 1,2
第７回　LISTENING SKILL 6　　SPEAKING SKILL 3,4
第８回　LISTENING POST-TEST　　SPEAKING SKILL 5,6,7
第９回　LISTENING MINI-TEST 1　SPEAKING SKILL 8,9,10
第10回　LISTENING MINI-TEST 2　SPEAKING SKILL 11,12,13
第11回　LISTENING MINI-TEST 3　SPEAKING SKILL 14,15,16
第12回　LISTENING MINI-TEST 4　SPEAKING SKILL 17,18,
第13回　LISTENING COMPLETE-TEST SPEAKING POST-TEST
第14回　REVIEW
第15回　学期末試験

【成績評価の方法】
試験　50%
学期末テスト（50%）、 TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断する。
（開講時に詳細のプリントを配布する）

【教科書】
Deborah Phillips LONGMAN Introductory Course for the TOEFL TEST iBT PEARSON Longman
テキストはCD ROMとアンサーキー付
その他ハンドアウトを配布する。

【参考文献】
適宜、指示する。

【備考】
＜04～07生＞の【全学部・全学科】履修可、
＜08～09生＞の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
＜08生＞の【国際教養学部　各専修生】
（但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A～6Bクラスに応募する事）

科目名　クラス　講義区分	
英語留学準備講座－ TOEFL　２B　＜秋＞	
柳　本　麻　美	１単位

【講義概要】
半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。英語留学準備講座TOEFL-１を合わせて受講することが非常に望ましい。　主にリスニングとスピーキングを中心に、比較的易しいテキストでTOEFL iBTで必要な基本スキルの習得を目指す。また、TOEFL iBTに加え、適宜、IPT対策を行う。留学した際、必要となるリスニングとスピーキング力を身につけるためには、講義に参加するだけでは十分とはいえない。課題も多く、自宅での学習も相当量必要となるので、勉強を本気でやるという覚悟を持って積極的に授業に参加すること。

【学習目標】
TOEFL ITP 450点（TOEFL iBT 45点）、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　LISTENING SKILL 1
第３回　LISTENING SKILL 2
第４回　LISTENING SKILL 3
第５回　LISTENING SKILL 4　SPEAKING PRE-TEST
第６回　LISTENING SKILL 5　SPEAKING SKILL 1,2
第７回　LISTENING SKILL 6　SPEAKING SKILL 3,4
第８回　LISTENING POST-TEST　SPEAKING SKILL 5,6,7
第９回　LISTENING MINI-TEST 1　SPEAKING SKILL 8,9,10
第10回　LISTENING MINI-TEST 2　SPEAKING SKILL 11,12,13
第11回　LISTENING MINI-TEST 3　SPEAKING SKILL 14,15,16
第12回　LISTENING MINI-TEST 4　SPEAKING SKILL 17,18,
第13回　LISTENING COMPLETE-TEST SPEAKING POST-TEST
第14回　REVIEW
第15回　学期末試験

【成績評価の方法】
試験　50%
学期末テスト（50%）、 TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断する。（開講時に詳細のプリントを配布する）

【教科書】
Deborah Phillips LONGMAN Introductory Course for the TOEFL TEST iBT PEARSON Longman
テキストはCD ROMとアンサーキー付
その他ハンドアウトを配布する。

【参考文献】
適宜、指示する。

【備考】
＜04～07生＞の【全学部・全学科】履修可、
＜08～09生＞の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
＜08生＞の【国際教養学部　各専修生】
（但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A～6Bクラスに応募する事）

科目名　クラス　講義区分	
英語留学準備講座－ TOEFL　3A　＜春＞	
佐々木　英　哲	1単位

【講義概要】
本講座TOEFL３（初級）は基本的にリーディングとライティングとを主に扱い、スピーキングとリスニングを扱うTOEFL４（初級）とをペアで履修する。

英語特待生留学の１次選抜試験は、団体試験として実施されるTOEFL－ITPを使う。一方、特待生留学参加者は、帰国後、TOEFL－iBTの受験が課せられる。そのiBTで高いスコアを取れば、それだけ認定単位数を増やすことができる。本講座では、iBT、ITP、その双方に対応できるように指導する。リーディング、ライティング、ストラクチャー（文法）を、ほぼ満遍なく扱う。語彙力を補うため、毎回、語彙テストを課す。ライティングではパソコン使用によるエッセー指導を行うので、課題量は多い。

【学習目標】
★特待生留学に応募する時の条件のひとつとして、本講座の履修が定められている。本講座は必修ではないものの、特待生留学への参加希望者にとっては、事実上、必修に近い科目である。

（1）国際教養学部の学生は、２年次以降、５専修に分かれる。英語コミュニケーション専修への所属を希望する場合は、原則的には特待生留学への参加が条件となる。
（2）本講座は、英語コミュニケーション専修を希望するが、特待生留学は希望しない学生も対象としている。なぜならば、TOEFLのスコアが英語コミュニケーション専修所属になるかどうかの判断基準となるからである。
（3）特待生留学では、英語圏の提携先大学で、英語運用能力を高める半年間の集中訓練を受ける。春学期にこの講座で特待生留学に向けた下準備を積み、秋学期の出発を目指す。あるいは、春学期、秋学期、２期に渡って本講座で準備を重ね、２年次春学期の出発を目指す。
（4）この講座では国際教養学部が実施する英語特待生留学の選抜にパスするという明確なゴールを掲げている。特待生留学はTOEFLテストITPで 最低でも400以上のスコアを出すことが、要求されている。したがって、本講座ではTOEFLで400以上のスコアをあげることを最終目標とする。

【講義計画】
第１回　TOEFLテストの概要を知る　PBT、CBT、iBT、ITP　（1）
第２回　TOEFLテストの概要を知る　PBT、CBT、iBT、ITP　（2）
第３回　リーディング（R１）試験形式に沿った訓練
第４回　リーディング（R２）
第５回　ライティング（W１）
第６回　ライティング（W２）
第７回　ストラクチャー（S１）
第８回　総合
第９回　リーディング（R３）
第10回　リーディング（R４）
第11回　ライティング（W３）
第12回　ライティング（W４）
第13回　ストラクチャー（S２）
第14回　テスト

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　30%　出席　30%
試験には毎回の語彙テストが含まれる。レポートとはエッセイ・ライティング等の課題を意味する。出席とは、単に教室に「いる」ということではなく、どれだけ自分の作業を遂行できたか、という意味である。

【備考】
＜09生＞の【国際教養学部】及び
＜08生＞の【国際教養学部　英語コミュニケーション専修生（英語特待生留学を希望する者のみ）】のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
英語留学準備講座－ TOEFL　3B　＜秋＞	
佐々木　英　哲	1単位

【講義概要】
本講座TOEFL３（初級）は基本的にリーディングとライティングとを主に扱い、スピーキングとリスニングを扱うTOEFL４（初級）とをペアで履修する。

英語特待生留学の１次選抜試験は、団体試験として実施されるTOEFL－ITPを使う。　一方、特待生留学参加者は、帰国後、TOEFL－iBTの受験が課せられる。そのiBTで高いスコアを取れば、それだけ認定単位数を増やすことができる。本講座では、iBT、ITP、その双方に対応できるように指導する。リーディング、ライティング、ストラクチャー（文法）を、ほぼ満遍なく扱う。語彙力を補うため、毎回、語彙テストを課す。ライティングではパソコン使用によるエッセー指導を行うので、課題量は多い。

【学習目標】
★特待生留学に応募する時の条件のひとつとして、本講座の履修が定められている。本講座は必修ではないものの、特待生留学への参加希望者にとっては、事実上、必修に近い科目である。

（1）国際教養学部の学生は、２年次以降、５専修に分かれる。英語コミュニケーション専修への所属を希望する場合は、原則的には特待生留学への参加が条件となる。
（2）本講座は、英語コミュニケーション専修を希望するが、特待生留学は希望しない学生も対象としている。なぜならば、TOEFLのスコアが英語コミュニケーション専修所属になるかどうかの判断基準となるからである。
（3）特待生留学では、英語圏の提携先大学で、英語運用能力を高める半年間の集中訓練を受ける。春学期にこの講座で特待生留学に向けた下準備を積み、秋学期の出発を目指す。あるいは春学期、秋学期、２期に渡って本講座で準備を重ね、２年次春学期の出発を目指す。
（4）この講座では国際教養学部が実施する英語特待生留学の選抜にパスするという明確なゴールを掲げている。特待生留学はTOEFLテストITPで 最低でも400以上のスコアを出すことが、要求されている。したがって、本講座ではTOEFLで400以上のスコアをあげることを最終目標とする。

【講義計画】
第１回　TOEFLテストの概要を知る　PBT、CBT、iBT、ITP　（1）
第２回　TOEFLテストの概要を知る　PBT、CBT、iBT、ITP　（2）
第３回　リーディング（R１）試験形式に沿った訓練
第４回　リーディング（R２）
第５回　ライティング（W１）
第６回　ライティング（W２）
第７回　ストラクチャー（S１）
第８回　総合
第９回　リーディング（R３）
第10回　リーディング（R４）
第11回　ライティング（W３）
第12回　ライティング（W４）
第13回　ストラクチャー（S２）
第14回　テスト

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　30%　出席　30%
試験には毎回の語彙テストが含まれる。レポートとはエッセイ・ライティング等の課題を意味する。出席とは、単に教室に「いる」ということではなく、どれだけ自分の作業を遂行できたか、という意味である。

【備考】
＜09生＞の【国際教養学部】及び
＜08生＞の【国際教養学部　英語コミュニケーション専修生（英語特待生留学を希望する者のみ）】のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
英語留学準備講座－ TOEFL　4A　＜春＞	
Kellem　Harlan　Robert	1単位

【講義概要】
This course is designed to familiarize students with the speaking and listening sections of the TOEFL test. The listening section measures your ability to understand spoken English from North America and other English-speaking parts of the world. In academic environments students need to listen to lectures and conversations. The speaking section includes speaking about familiar topics, and answering questions about reading passages and lectures. This introductory class is designed to help students whose current TOEFL test score ranges approximately from 380 to 400 on the TOEFL PBT or 26-32 on the TOEFL iBT.

【学習目標】
At the end of this course students will:
Be familiar with the format and language of the TOEFL speaking and listening sections.
Understand the discrete skills necessary to fully utilize their English knowledge during the test.
Have improved their English through practice during and outside of class.

【講義計画】
第１回　Course intro (The course schedule is tentative and may be revised)
第２回　Plan free-choice response; Understanding the Gist
第３回　Make free-choice response; Understanding the Gist
第４回　Plan paired-choice response; Understand the details
第５回　Make paired-choice response; Understand the details
第６回　Note the main point as you read; Understand the function
第７回　Note the main point as you listen; Understand the function
第８回　Plan before you speak; Understand the speaker' s stance
第９回　Make the response; Understand the speaker' s stance
第10回　Note the main point as you r; Understand the organization
第11回　Note the main point as you listen; Understand the relationships
第12回　Plan before you speak; Understand the relationships
第13回　Make the response; Listening final exam
第14回　Final exam

【成績評価の方法】
Grades will be based on in-class participation, homework, homework quizzes, and a final exam.

【教科書】
Phillips, Doborah Longman Introductory Course for the TOEFL iBT Second Edition Pearson Longman

【備考】
＜09生＞の【国際教養学部】及び
＜08生＞の【国際教養学部　英語コミュニケーション専修生（英語特待生留学を希望する者のみ)】のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
英語留学準備講座－ TOEFL　4B　＜秋＞	
Kellem　Harlan　Robert	1単位

【講義概要】
This course is designed to familiarize students with the speaking and listening sections of the TOEFL test. The listening section measures your ability to understand spoken English from North America and other English-speaking parts of the world. In academic environments students need to listen to lectures and conversations. The speaking section includes speaking about familiar topics, and answering questions about reading passages and lectures. This introductory class is designed to help students whose current TOEFL test score ranges approximately from 380 to 400 on the TOEFL PBT or 26-32 on the TOEFL iBT.

【学習目標】
At the end of this course students will:
Be familiar with the format and language of the TOEFL speaking and listening sections.
Understand the discrete skills necessary to fully utilize their English knowledge during the test.
Have improved their English through practice during and outside of class.

【講義計画】
第１回　Course intro (The course schedule is tentative and may be revised)
第２回　Plan free-choice response; Understanding the Gist
第３回　Make free-choice response; Understanding the Gist
第４回　Plan paired-choice response; Understand the details
第５回　Make paired-choice response; Understand the details
第６回　Note the main point as you read; Understand the function
第７回　Note the main point as you listen; Understand the function
第８回　Plan before you speak; Understand the speaker' s stance
第９回　Make the response; Understand the speaker' s stance
第10回　Note the main point as you r; Understand the organization
第11回　Note the main point as you listen; Understand the relationships
第12回　Plan before you speak; Understand the relationships
第13回　Make the response; Listening final exam
第14回　Final exam

【成績評価の方法】
Grades will be based on in-class participation, homework, homework quizzes, and a final exam.

【教科書】
Textbook To Be Announced

【参考文献】
Textbook To Be Announced

【備考】
＜09生＞の【国際教養学部】及び
＜08生＞の【国際教養学部　英語コミュニケーション専修生（英語特待生留学を希望する者のみ)】のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
英語留学準備講座－TOEFL　5A　＜春＞	
藤　森　かよ子	1単位

【講義概要】

★特待生留学に応募する時の条件のひとつとして、本講座の履修が定められている。本講座は必修ではないものの、特待生留学への参加希望者にとっては、事実上、必修に近い科目である。

（1）国際教養学部の学生は、２年次以降、５専修に分かれる。英語コミュニケーション専修への所属を希望する場合は、原則的には特待生留学への参加が条件となる。

（2）本講座は、英語コミュニケーション専修を希望するが、特待生留学は希望しない学生も対象としている。なぜならば、TOEFLのスコアが英語コミュニケーション専修所属になるかどうかの判断基準となるからである。

（3）特待生留学では、英語圏の提携先大学で、英語運用能力を高める半年間の集中訓練を受ける。春学期にこの講座で特待生留学に向けた下準備を積み、秋学期の出発を目指す。あるいは春学期、秋学期、２期に渡って本講座で準備を重ね、２年次春学期の出発を目指す。

（4）この講座では国際教養学部が実施する英語特待生留学の選抜にパスするという明確なゴールを掲げている。特待生留学はTOEFLテストで 最低でも400以上のスコアを出すことが、要求されている。したがって、本講座ではTOEFLで400以上のスコアをあげることを最終目標とする。

【学習目標】

★本講座TOEFL５（中級）は基本的にリーディングとライティングとを主に扱い、スピーキングとリスニングを扱うTOEFL６（中級）とをペアで履修する。

★英語特待生留学の１次選抜試験は、団体試験として実施されるTOEFL－IPTを使う。　一方、特待生留学参加者は、帰国後、TOEFL－iBTの受験が課せられる。そのiBTで高いスコアを取れば、それだけ認定単位数を増やすことができる。本講座では、iBT、IPT、その双方に対応できるように指導する。リーディング、ライティング、ストラクチャー（文法）を、ほぼ満遍なく扱う。

★語彙力を補うため、毎回、語彙テストを課す。ライティングではパソコン使用によるエッセー指導を行うので、課題量は多い。

【講義計画】

第１回　TOEFLテストの概要を知る：PBT, CBT, iBT, IPT（1）
第２回　TOEFLテストの概要を知る：PBT, CBT, iBT, IPT（2）
第３回　リーディング
第４回　リーディング
第５回　ライティング
第６回　ライティング
第７回　ストラクチャー
第８回　総合
第９回　リーディング
第10回　リーディング
第11回　ライティング
第12回　ライティング
第13回　総合
第14回　総合
第15回　試験

【成績評価の方法】

試験　40%　レポート　30%　出席　30%
試験には毎回の語彙テストが含まれる。レポートとは、エッセイ・ライティング等の課題を意味する。出席とは、単に教室に「いた」ということではなく、どれだけ自分の作業を遂行したかが評価される。

【教科書】

川手 ミヤジェイェフスカ恩; Steve Mierzejewski TOEFLテスト完全攻略模試３回分―iBT対応 アルク
そのほかに、担当教員により多くのプリント資料が提供される。

【参考文献】

できるのならば、以下の２冊のうち１冊は各自購入して参考にしていただきたい。

The Official Guide to the New TOEFL iBT (Second Edition) (McGraw-Hill,2007)

TOEFL iBT with CD-ROM 2008-2009 Edition (Kaplan,2007)

【備考】

＜09生＞の【国際教養学部】及び
＜08生＞の【国際教養学部　英語コミュニケーション専修生（英語特待生留学を希望する者のみ）】のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
英語留学準備講座－TOEFL　5B　＜秋＞	
藤　森　かよ子	1単位

【講義概要】

★特待生留学に応募する時の条件のひとつとして、本講座の履修が定められている。本講座は必修ではないものの、特待生留学への参加希望者にとっては、事実上、必修に近い科目である。

（1）国際教養学部の学生は、2年次以降、5専修に分かれる。英語コミュニケーション専修への所属を希望する場合は、原則的には特待生留学への参加が条件となる。

（2）本講座は、英語コミュニケーション専修を希望するが、特待生留学は希望しない学生も対象としている。なぜならば、TOEFLのスコアが英語コミュニケーション専修所属になるかどうかの判断基準となるからである。

（3）特待生留学では、英語圏の提携先大学で、英語運用能力を高める半年間の集中訓練を受ける。春学期にこの講座で特待生留学に向けた下準備を積み、秋学期の出発を目指す。あるいは春学期、秋学期、2期に渡って本講座で準備を重ね、2年次春学期の出発を目指す。

（4）この講座では国際教養学部が実施する英語特待生留学の選抜にパスするという明確なゴールを掲げている。特待生留学はTOEFLテストで 最低でも400以上のスコアを出すことが、要求されている。したがって、本講座ではTOEFLで400以上のスコアをあげることを最終目標とする。

【学習目標】

★本講座TOEFL 5（中級）は基本的にリーディングとライティングとを主に扱い、スピーキングとリスニングを扱うTOEFL 6（中級）とをペアで履修する。

★英語特待生留学の1次選抜試験は、団体試験として実施されるTOEFL－IPTを使う。　一方、特待生留学参加者は、帰国後、TOEFL－iBTの受験が課せられる。そのiBTで高いスコアを取れば、それだけ認定単位数を増やすことができる。本講座では、iBT、IPT、その双方に対応できるように指導する。リーディング、ライティング、ストラクチャー（文法）を、ほぼ満遍なく扱う。

★語彙力を補うため、毎回、語彙テストを課す。ライティングではパソコン使用によるエッセー指導を行うので、課題量は多い。

【講義計画】

第1回　TOEFLテストの概要を知る：PBT, CBT, iBT, IPT（1）
第2回　TOEFLテストの概要を知る：PBT, CBT, iBT, IPT（2）
第3回　リーディング
第4回　リーディング
第5回　ライティング
第6回　ライティング
第7回　ストラクチャー
第8回　総合
第9回　リーディング
第10回　リーディング
第11回　ライティング
第12回　ライティング
第13回　総合
第14回　総合
第15回　試験

【成績評価の方法】

試験　40%　レポート　30%　出席　30%
試験には毎回の語彙テストが含まれる。レポートとは、エッセイ・ライティング等の課題を意味する。出席とは、単に教室に「いた」ということではなく、どれだけ自分の作業を遂行したかが評価される。

【教科書】

川手　ミヤジェイェフスカ恩; Steve Mierzejewski TOEFLテスト完全攻略模試3回分―iBT対応 アルク
そのほかに、担当教員により多くのプリント資料が提供される。

【参考文献】

できるのならば、以下の2冊のうち1冊は各自購入して参考にしていただきたい。

The Official Guide to the New TOEFL iBT (Second Edition) (McGraw-Hill, 2007)

TOEFL iBT with CD-ROM 2008-2009 Edition (Kaplan, 2007)

【備考】

＜09生＞の【国際教養学部】及び
＜08生＞の【国際教養学部　英語コミュニケーション専修生（英語特待生留学を希望する者のみ）】のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
英語留学準備講座－TOEFL　6A　＜春＞	
Kellem Harlan Robert	1単位

【講義概要】
This course is designed to familiarize students with the speaking and listening sections of the TOEFL test. The listening section measures your ability to understand spoken English from North America and other English-speaking parts of the world. In academic environments students need to listen to lectures and conversations. The speaking section includes speaking about familiar topics, and answering questions about reading passages and lectures. This intermediate class is designed to help students whose current TOEFL test score ranges approximately from 400 to 420 on the TOEFL PBT or 32-37 on the TOEFL iBT.

【学習目標】
At the end of this course students will:
Be familiar with the format and language of the TOEFL speaking and listening sections.
Understand the discrete skills necessary to fully utilize their English knowledge during the test.
Have improved their English through practice during and outside of class.

【講義計画】
第1回 Course intro (The course schedule is tentative and may be revised)
第2回 Plan free-choice response; Understanding the Gist
第3回 Make free-choice response; Understanding the Gist
第4回 Plan paired-choice response; Understand the details
第5回 Make paired-choice response; Understand the details
第6回 Note the main point as you read; Understand the function
第7回 Note the main point as you listen; Understand the function
第8回 Plan before you speak; Understand the speaker' s stance
第9回 Make the response; Understand the speaker' s stance
第10回 Note the main point as you r; Understand the organization
第11回 Note the main point as you listen; Understand the relationships
第12回 Plan before you speak; Understand the relationships
第13回 Make the response; Listening final exam
第14回 Final exam

【成績評価の方法】
Grades will be based on in-class participation, homework, homework quizzes, and a final exam.

【教科書】
Phillips, Deborah Longman Introductory Course for the TOEFL iBT Second Edition Pearson Longman

【備考】
＜09生＞の【国際教養学部】及び
＜08生＞の【国際教養学部　英語コミュニケーション専修生（英語特待生留学を希望する者のみ）】のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
英語留学準備講座－TOEFL　6B　＜秋＞	
Kellem Harlan Robert	1単位

【講義概要】
This course is designed to familiarize students with the speaking and listening sections of the TOEFL test. The listening section measures your ability to understand spoken English from North America and other English-speaking parts of the world. In academic environments students need to listen to lectures and conversations. The speaking section includes speaking about familiar topics, and answering questions about reading passages and lectures. This intermediate class is designed to help students whose current TOEFL test score ranges approximately from 400 to 420 on the TOEFL PBT or 32-37 on the TOEFL iBT.

【学習目標】
At the end of this course students will:
Be familiar with the format and language of the TOEFL speaking and listening sections.
Understand the discrete skills necessary to fully utilize their English knowledge during the test.
Have improved their English through practice during and outside of class.

【講義計画】
第1回 Course intro (The course schedule is tentative and may be revised)
第2回 Plan free-choice response; Understanding the Gist
第3回 Make free-choice response; Understanding the Gist
第4回 Plan paired-choice response; Understand the details
第5回 Make paired-choice response; Understand the details
第6回 Note the main point as you read; Understand the function
第7回 Note the main point as you listen; Understand the function
第8回 Plan before you speak; Understand the speaker' s stance
第9回 Make the response; Understand the speaker' s stance
第10回 Note the main point as you r; Understand the organization
第11回 Note the main point as you listen; Understand the relationships
第12回 Plan before you speak; Understand the relationships
第13回 Make the response; Listening final exam
第14回 Final exam

【成績評価の方法】
Grades will be based on in-class participation, homework, homework quizzes, and a final exam.

【教科書】
Textbook To Be Announced

【備考】
Textbook To Be Announced
＜09生＞の【国際教養学部】及び
＜08生＞の【国際教養学部　英語コミュニケーション専修生（英語特待生留学を希望する者のみ）】のみ履修可